2024年度
学生生活実態調査
報告書

関西大学学生センター

ま え が き

「2024年度学生生活実態調査報告書」を刊行いたしました。

この報告書は、2024年9月から10月にかけて実施した調査を統計的に処理して分析し、その結果を概要やグラフおよび基礎集計表にまとめています。

この調査の目的は本学学生の生活実態を把握することであり、また学生の修学状況、課外活動やボランティア活動の実態、学生の福利厚生に関する基礎資料を作成し、経年的に比較することで、学生の教学面、生活面をサポートするための施策を迅速に立案実施するためには欠かせないものと考えております。

今年度は「本学独自調査（奨学支援を含む学生生活全般）」の調査テーマで実施し、基本的な調査項目に加え、「大学生活でのマナー・モラル及びトラブル」、「飲酒・喫煙・薬物等に関する意識」、「アルバイトの状況」、「奨学金」等の学生生活全般に関わる問題に焦点を当て、構成しています。さらに、社会情勢や学内および本学を取り巻く環境の変化も考慮しつつ、グラフやコメントを多く掲載いたしました。この結果、より正確に本学の学生像を把握できるものになったと考えております。

2025年３月31日

関西大学　学生センター所長

石井　光

調査概要

本学の「学生生活実態調査」は1955年度に始まり、2003年度までは、ほぼ毎年実施してきましたが、2004年度から2008年度までは隔年の実施となっていました。

しかし、学生生活の実態が毎年変化していることから、学生の実態をより的確に把握するため、2009年度以降は再び毎年実施しています。

2022年度からは、旧来の調査サイクルであった「本学の独自調査」、「特別テーマ」、「日本私立大学連携の調査を活用」及び各調査項目を見直し、①「本学の独自調査（奨学支援を含む学生生活全般)」、②「本学の独自調査（課外活動全般)」、③「日本私立大学連盟の調査を活用」としました。

本年は、①「本学の独自調査（奨学支援を含む学生生活全般)」を実施しました。この調査はマナー・モラルや奨学金に特化し実施するものです。

調査期間

2024年９月11日（水）～2024年10月23日（水）

調査方法

インフォメーションシステムにより調査への協力を依頼した。回答方法はMicrosoftの「Forms」から回答する形式をとった。

調査対象

学部学生から無作為で12,000人を抽出

調査項目

次の３項目で構成

（１）基本項目

（２）奨学支援を含む学生生活全般

（３）自由記述

回収率

17.9%（2,153/12,000人）

回収結果

学部生

	在学生数	抽出数	回収数				合計	回収率
			１年	２年	３年	４年		
法学部	3,048	1,311	118	109	82	91	400	30.5%
文学部	3,319	1,427	143	76	71	65	355	24.9%
経済学部	3,117	1,343	46	56	46	53	201	15.0%
商学部	3,131	1,347	56	45	35	31	167	12.4%
社会学部	3,352	1,443	54	56	62	50	222	15.4%
政策創造学部	1,482	639	34	35	22	28	119	18.6%
外国語学部	736	318	44	1	20	18	83	26.1%
人間健康学部	1,364	588	18	17	13	18	66	11.2%
総合情報学部	2,180	940	60	46	44	31	181	19.3%
社会安全学部	1,166	504	18	17	17	18	70	13.8%
システム理工学部	2,131	920	23	35	27	39	124	13.5%
環境都市工学部	1,334	576	18	17	17	23	75	13.0%
化学生命工学部	1,495	644	28	19	27	16	90	14.0%
合計	27,855	12,000	660	529	483	481	2,153	17.9%

※注１　在学生数は2024年５月１日現在

その他

・調査結果のグラフ及び基礎集計表の数値は、データ集計時、少数第２位を四捨五入している関係上、選択肢の数値を合計しても100（%）とならない場合がある。
・学部をキャンパス別に分ける場合は以下のとおりで集計している。

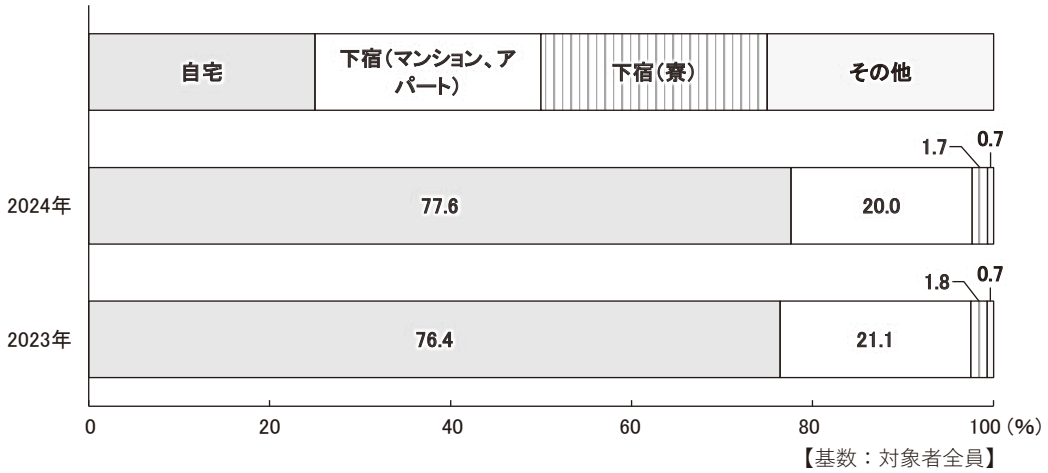
千里山キャンパス	法学部
	文学部
	経済学部
	商学部
	社会学部
	政策創造学部
	外国語学部
	システム理工学部
	環境都市工学部
	化学生命工学部
高槻キャンパス	総合情報学部
高槻ミューズキャンパス	社会安全学部
堺キャンパス	人間健康学部

・理工系・文系の分類については、システム理工学部、環境都市工学部、化学生命工学部を理工系とし、その他の学部を文系として集計している。

Ⅰ　調査結果

居住形態

問３ あなたの住居は、次のうちどれですか。



【基数：対象者全員】

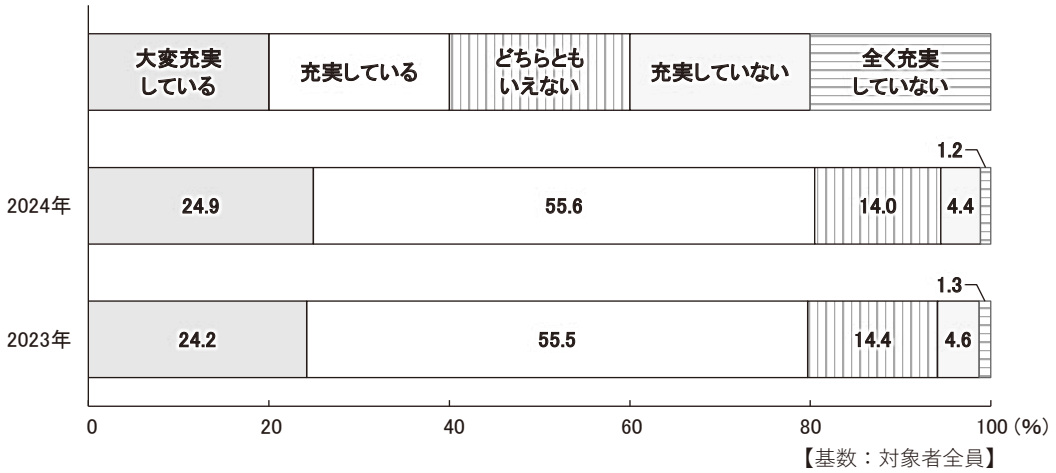
自宅から通学する学生がわずかに増加

今回の調査で居住形態を「自宅」と回答した学生の割合は77.6%、「下宿（マンション、アパート）」または「下宿（寮）」と回答した学生の割合は21.7%となり、自宅から通学する学生は７割を超える。前回調査（2023年度）と比較すると、「自宅」と回答した学生の割合は1.2ポイント増加した。

居住形態を学年別にみると、「下宿（マンション、アパート）」と「下宿（寮）」ともに１年次生が高く、上位年次になるにつれて低くなることが分かった。

学生生活の充実度

問４　**あなたの学生生活は充実していると思いますか。**



【基数：対象者全員】

学生生活の充実度は安定して高い

今回の調査で「大変充実している」と「充実している」の合計値は80.5%となり、８割を超える学生が充実した学生生活を過ごしていると感じていることが分かった。

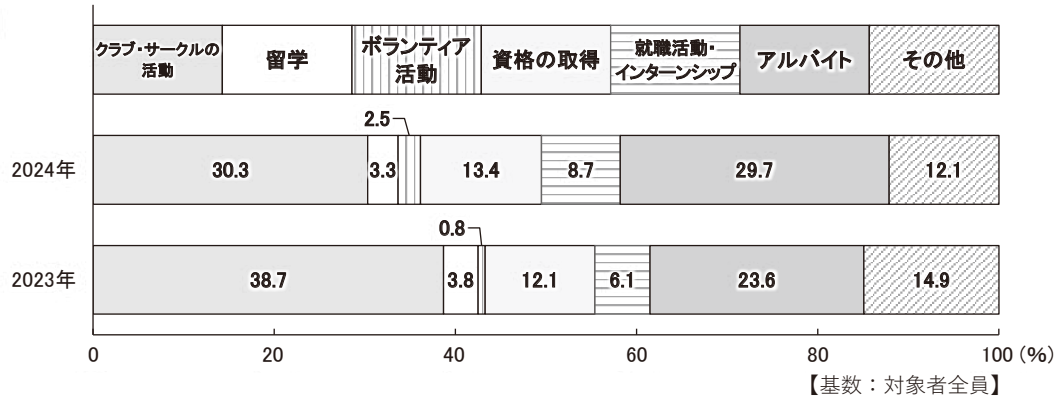
これらの“充実している群”の割合は前回調査（2023年度）と比較すると、0.8ポイント微増しており、学生生活の充実度は全体的に安定している。

また、対人関係別にクロス集計で見ると、対人関係が「大変うまくいっている」と回答した学生は、学生生活の充実度も「大変充実している」と感じている割合が59.4%と最も高く、学生生活の充実度は対人関係に大きく影響していることが分かる。

興味・関心事

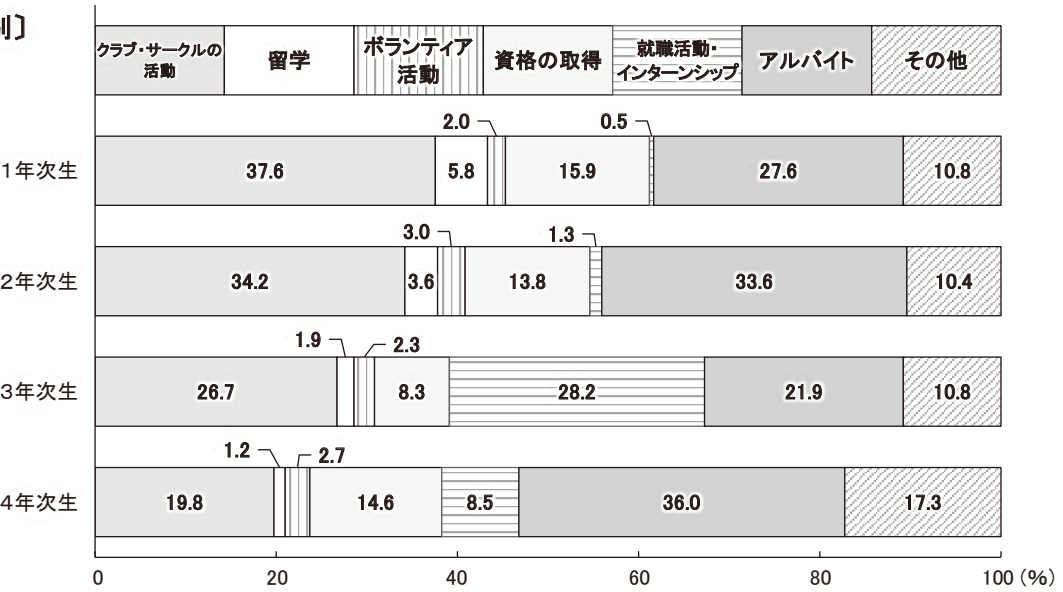
問５ 大学での勉学・研究以外であなたが現在、最も興味や関心を持って取り組んでいることはどれですか。

〔全体〕



【基数：対象者全員】

〔学年別〕



【基数：対象者全員】

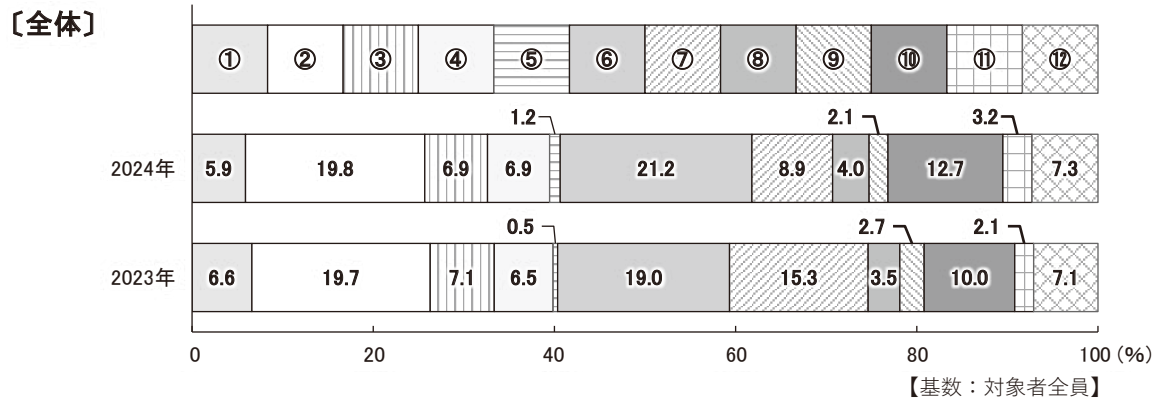
クラブ・サークル活動に熱心な学生

大学での勉学・研究以外で興味や関心を持って取り組んでいることについて、「クラブ・サークルの活動」と回答した学生の割合は全体で30.3%と最も高く、次いで「アルバイト」と回答した学生の割合は29.7%であった。「留学」や「ボランティア活動」は比較的低く、それぞれ3.3%と2.5%であった。前回調査（2023年度）と比較しても、学生が興味や関心を持って取り組む分野は同じ傾向にある。

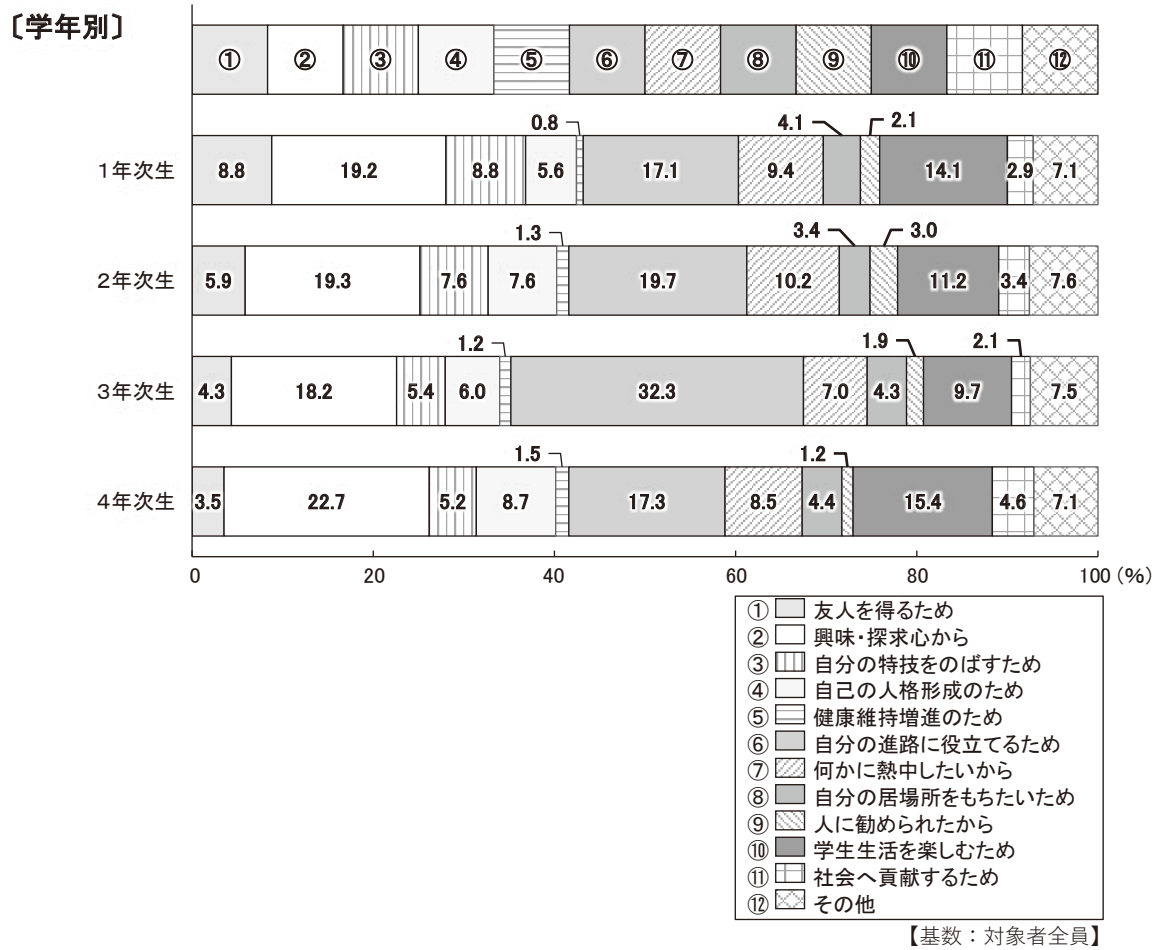
学年別にみると、３年次生では「就職活動・インターンシップ」と回答した学生の割合は28.2%と他の学年よりも約20ポイント高く、学年毎に学生の興味や関心が変化していることが分かる。

興味・関心事の動機

問６ **問５「大学での勉学・研究以外であなたが現在、最も興味や関心を持って取り組んでいることはどれですか。」で回答した内容について、それに取り組みはじめた動機は何ですか。**



【基数：対象者全員】



【基数：対象者全員】

自分の進路に役立てたい学生が多数

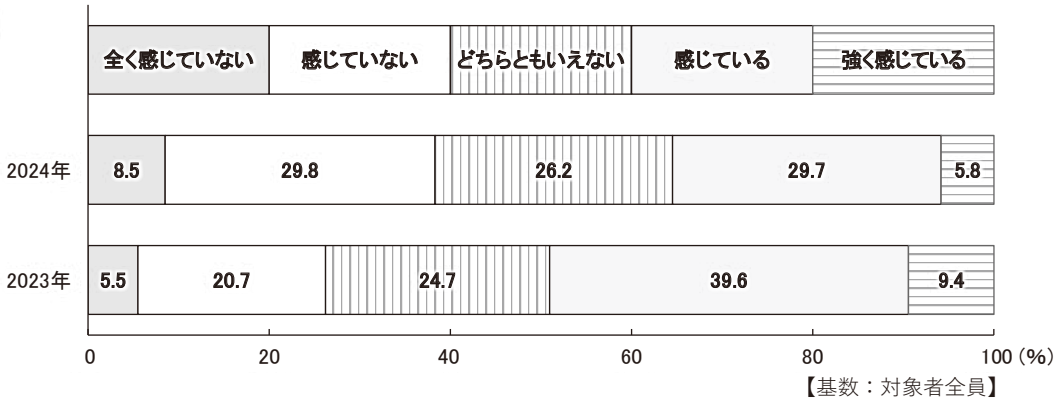
大学での勉強・研究以外で興味や関心を持って取り組んだ動機について、「自分の進路に役立てるため」と回答した学生の割合は全体で21.2%と最も高く、次いで「興味・探求心から」が19.8%、「学生生活を楽しむため」が12.7%であった。

学年別にみると、「自分の進路に役立てるため」と回答した学生の割合は３年次生が32.3%と最も高く、これは問５（興味・関心事）で「就職活動・インターンシップ」と回答した３年次生が最も高いことと関連している。

ストレス・不安

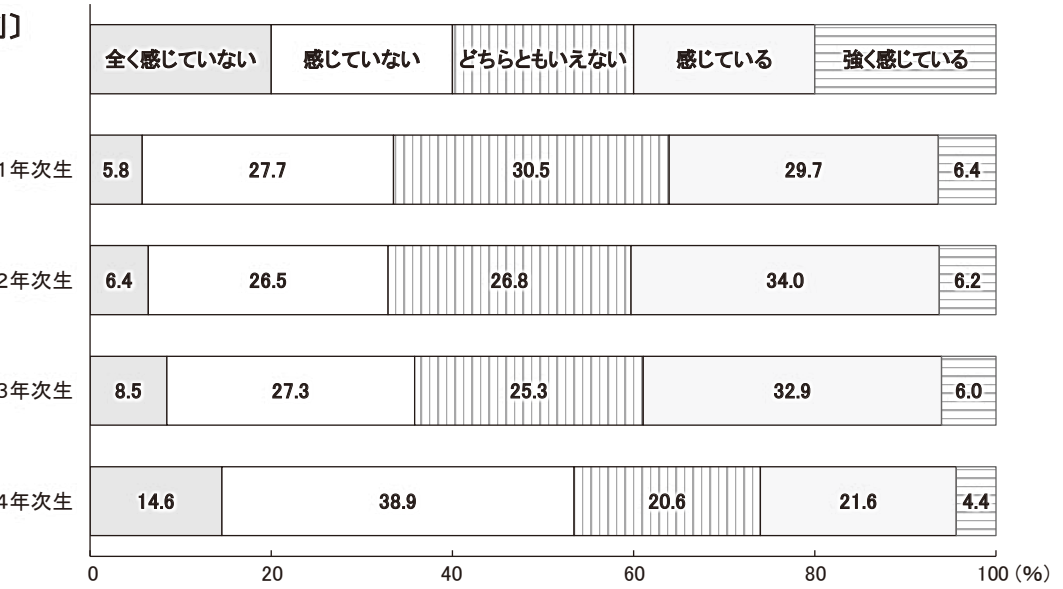
問７ 大学生活において、ストレスや不安を感じていますか。

〔全体〕



【基数：対象者全員】

〔学年別〕



【基数：対象者全員】

３人に１人の学生がストレスや不安を感じている

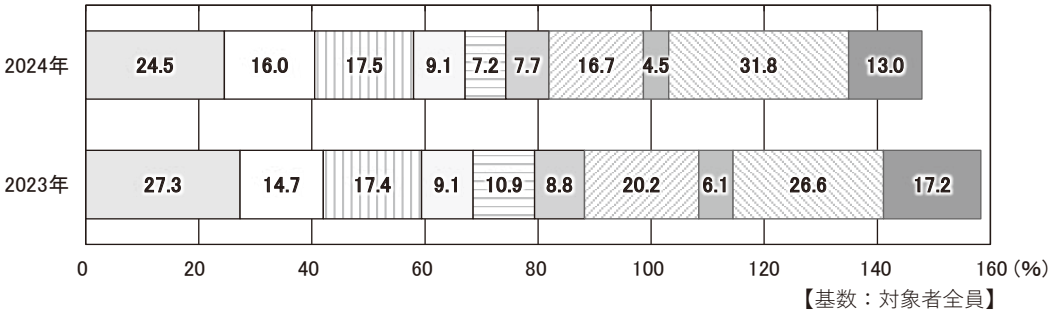
大学生活においてストレスや不安を感じているかについて調査したところ、「強く感じている」「感じている」と回答した学生の割合は35.5%となり、前回調査（2023年度）から13.5ポイント減少した。

また、「強く感じている」「感じている」と回答した学生の割合を学年別でみると、１年次生が36.1%、２年次生が40.2%、３年次生が38.9%、４年次生26.0%となり、４年次生を除く学年で35%を超える結果となった。

不安や悩みの内容

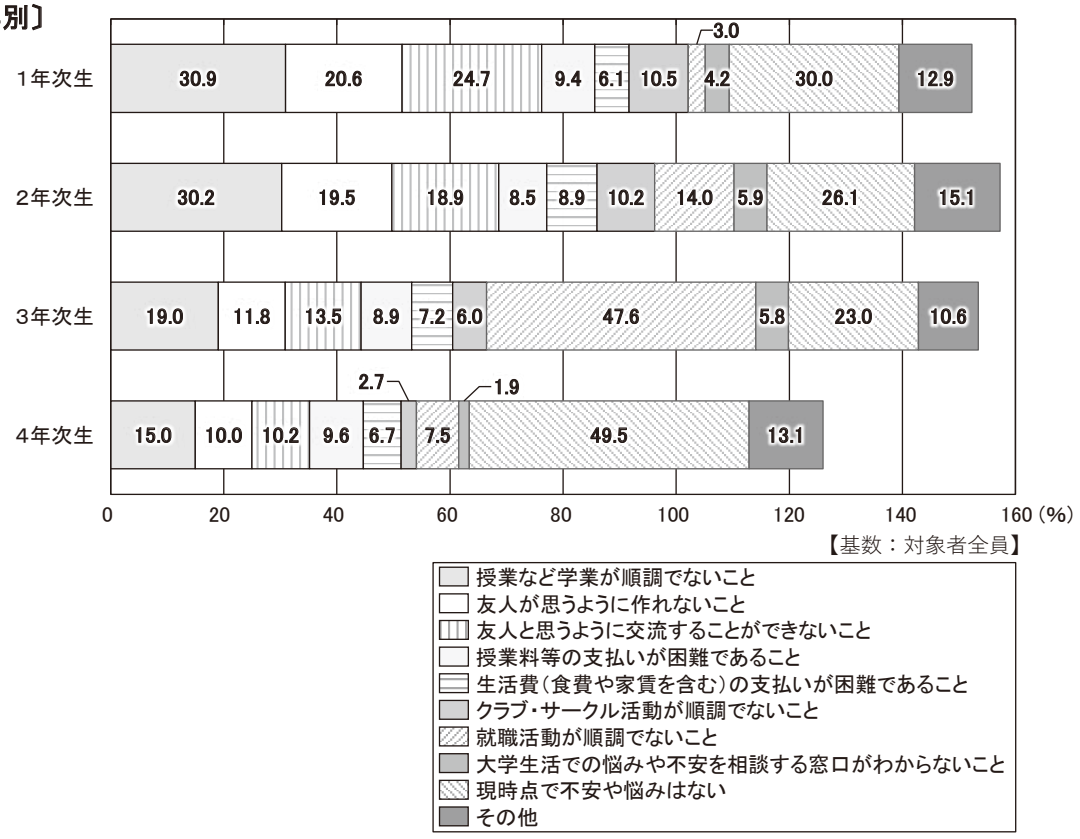
問８ 大学生活において、どのような不安や悩みがありますか。（複数選択可）

〔全体〕



【基数：対象者全員】

〔学年別〕



【基数：対象者全員】

上位年次になるにつれ修学面や対人関係に関する不安や悩みは減少

不安や悩みについて「現時点で不安や悩みはない」と回答した学生の割合が31.8％と最も高く、次いで「授業など学業が順調でないこと」が24.5％という結果となった。

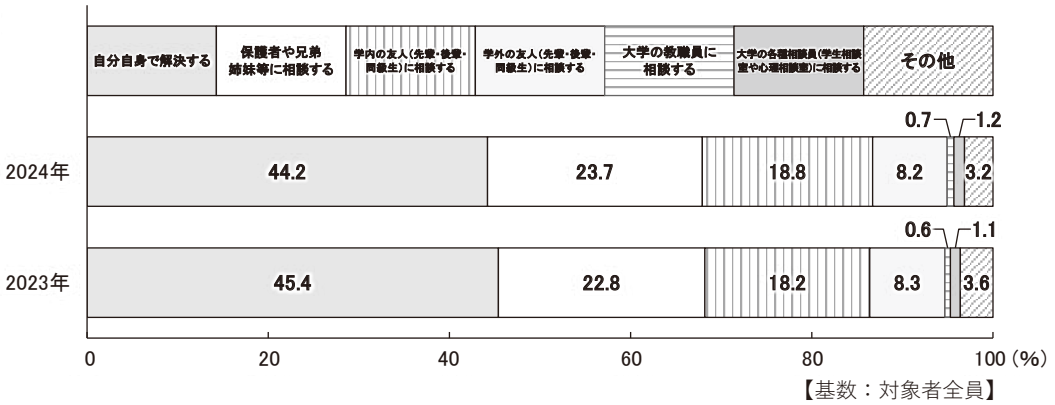
学年別にクロス集計で見ると、「授業など学業が順調でないこと」「友人と思うように交流することができないこと」「クラブ・サークル活動が順調でないこと」に悩みや不安があると回答した学生の割合は、上位年次になるにつれて低くなり、年次進行とともに修学面や対人関係等の不安や悩みが解消されていくことが分かった。

また、「就職活動が順調でないこと」と回答した学生の割合は、３年次生が47.6％と突出して最も高く、就職活動を行う学生の不安や悩みが顕著に表れる結果となった。

不安・悩みの解決方法

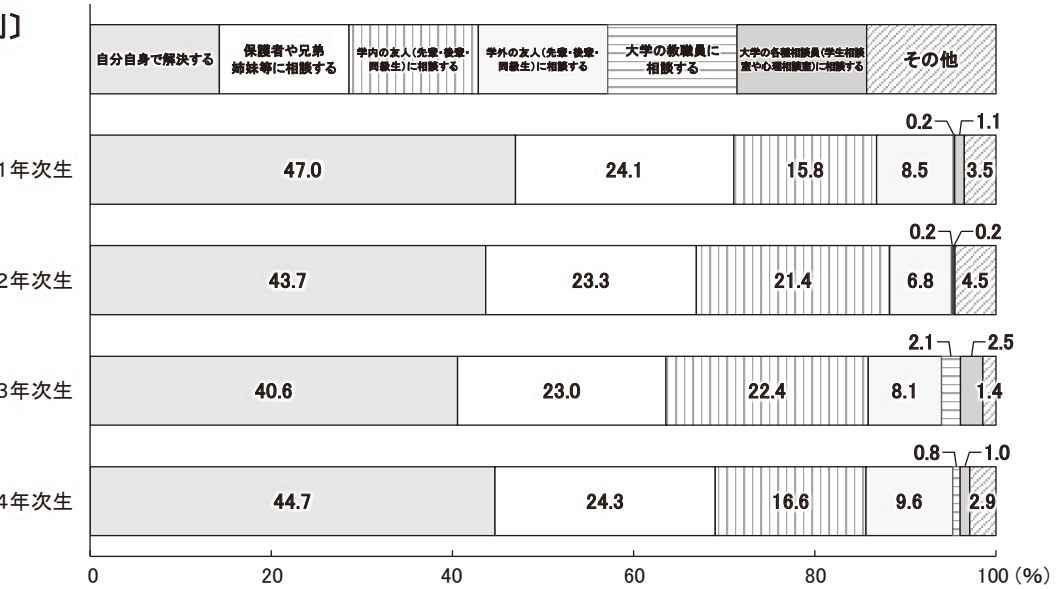
問９ 不安や悩みをどのように解決しますか。最も用いる解決方法を選択してください。

〔全体〕



【基数：対象者全員】

〔学年別〕



【基数：対象者全員】

半数を超える学生が家族や友人に相談すると回答

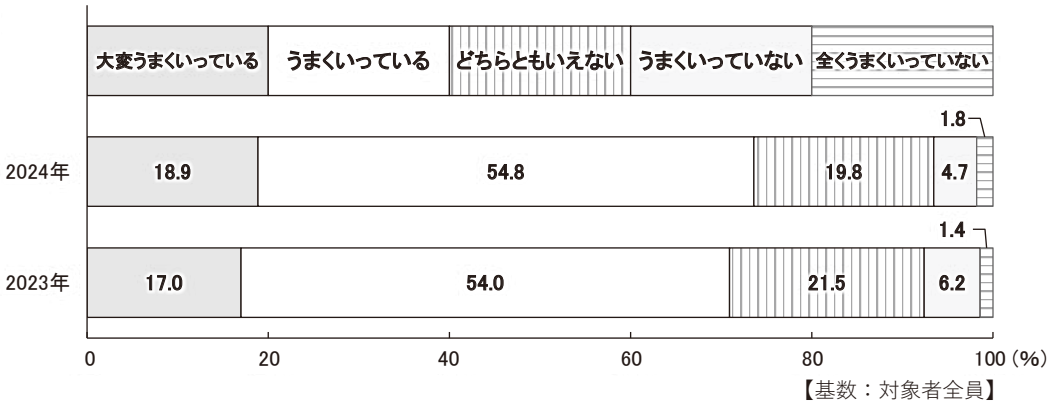
不安や悩みの解決方法について「保護者や兄弟姉妹等に相談する」「学内の友人（先輩・後輩・同級生）に相談する」「学外の友人（先輩・後輩・同級生）に相談する」と回答した学生の割合は50.7%となり、全体の半数強の学生が不安や悩みを家族や友人といった近しい人に相談することが分かった。

また、「自分自身で解決する」と回答した学生の割合について学部別に見てみると、システム理工学部が55.6%と最も高く、次いで政策創造学部が51.3%となった。

対人関係

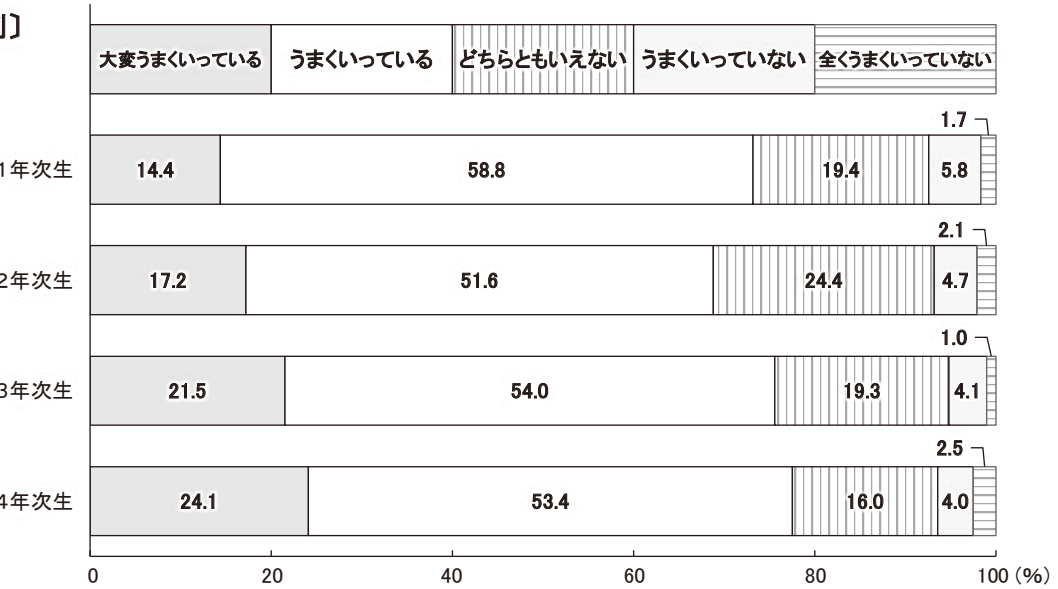
問10 あなたは自身の対人関係についてどう感じていますか。

〔全体〕



【基数：対象者全員】

〔学年別〕



【基数：対象者全員】

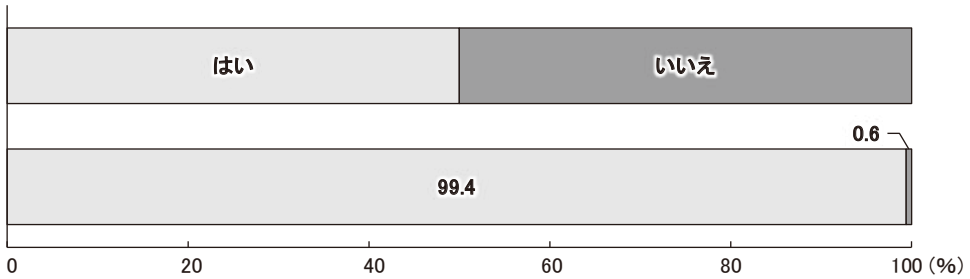
約７割以上の学生が「対人関係はうまくいっている」と回答

対人関係について、「大変うまくいっている」「うまくいっている」と回答した学生の割合は73.7%となり、前回調査（2023年度）から2.7ポイント増加し、４年次生が77.5%と最も高く、２年次生が68.8%と最も低い結果となった。

また、充実度別にクロス集計で見てみると「大変充実している」と回答した学生のうち、92.0%が「大変うまくいっている」「うまくいっている」と回答していることから、学生生活の充実度と対人関係が円滑であることには一定の相関があることが分かった。

マナー・モラルに関する意識

問11 **あなたは学生生活を送る上で、周囲に対するマナー・モラルを持って行動できていますか。**



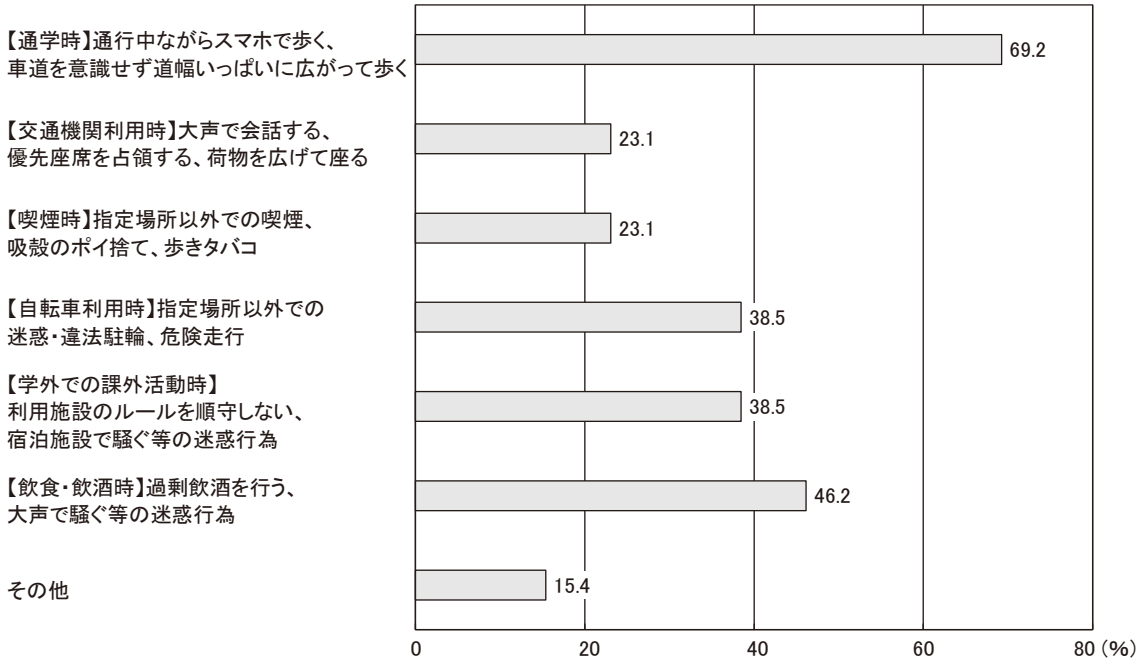
【基数：対象者全員】

９割の学生が「はい」と回答

周囲に対するマナー・モラルを持って行動できているかという問いに対し、「はい」と回答した学生の割合が99.4%、「いいえ」と回答した学生の割合が0.6%であることから、圧倒的多数の学生が学生生活を送る上で、マナーやモラルに対する意識を持って行動できていると認識していることが分かる。しかしながら、本設問において「マナー・モラルを持った行動」の基準を明確に定義しておらず、具体的な行動を特定しない抽象的な問いであったため、回答者の主観的な解釈による結果とも読み取れる。

マナー・モラルの内容

問12 **問11「あなたは学生生活を送る上で、周囲に対するマナー・モラルを持って行動できていますか。」で「いいえ」と回答した方にお尋ねします。どのような時に、マナー・モラルを持って行動できていないと思いますか。（複数選択可）**



【基数：周囲に対するマナー・モラルを持って行動できてない人】

その他（自由記述）

・期日を守れない

・自分が組織の規律を乱している

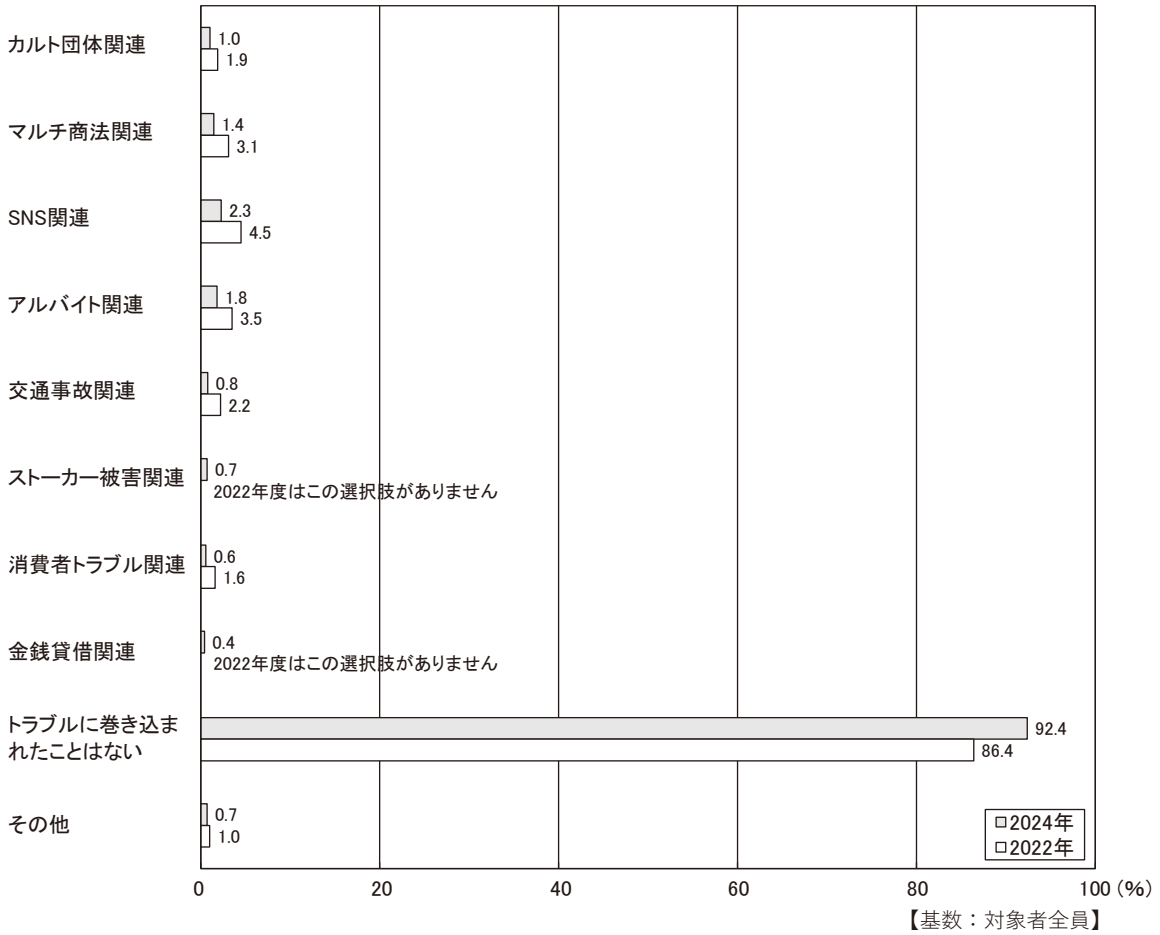
約７割の学生が通学時にマナー・モラルを持って行動できていないと回答

問11「あなたは学生生活を送る上で、周囲に対するマナー・モラルを持って行動できていますか。」で「いいえ」と回答した学生に対し、どのような時にマナー・モラルを持って行動できていないと思うか調査したところ、「【通学時】通行中ながらスマホで歩く、車道を意識せず道幅いっぱいに広がって歩く」と回答した学生の割合は69.2%と最も高く、７割近くの学生が通学中にマナー・モラルを持った行動を意識できていないことが分かった。次いで「【飲食・飲酒時】過剰飲酒を行う、大声で騒ぐ等の迷惑行為」と回答した学生の割合が46.2%となり、集団で集まる飲食・飲酒時に公共の場でのマナー・モラルの意識が薄れる傾向にあることも読み取れる。

学生のマナー・モラル意識向上のために、大学としてより一層効果的な啓発内容を検討し、実施していく必要がある。

大学生活におけるトラブル

問13 **あなたは大学生活でどのようなトラブルに巻き込まれたことがありますか。（複数選択可）**



【基数：対象者全員】

その他（自由記述）

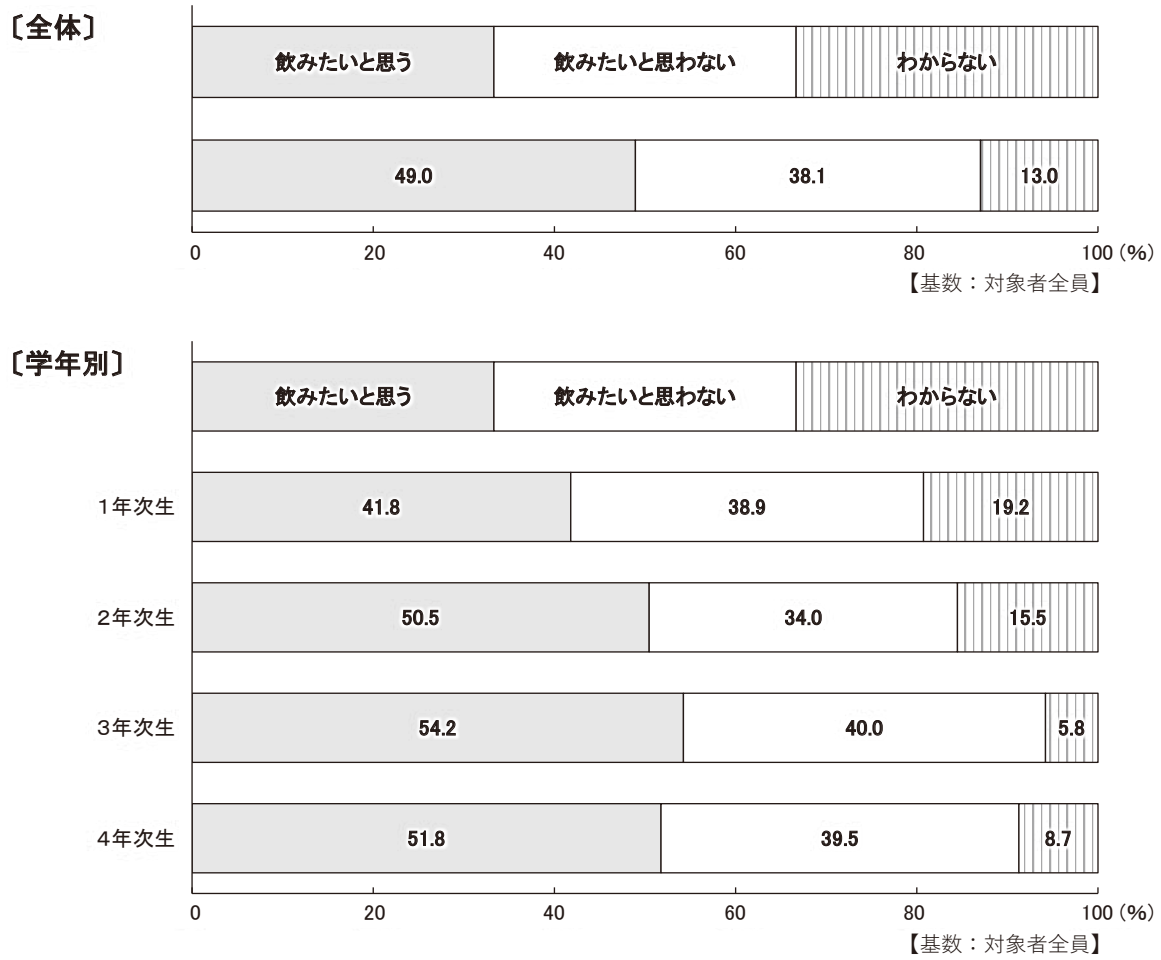
・研究室内での人間関係
・誹謗中傷
・友人トラブル
・ハラスメント行為
・隣人の騒音
・性被害
・投資詐欺
・一般教養のレポート課題の代筆を迫られ付きまとわれた
・自転車の盗難
・電車内の痴漢
・医療機関からの嫌がらせ

9割を超える学生が「トラブルに巻き込まれたことはない」と回答

今回の調査で「トラブルに巻き込まれたことはない」と回答した学生の割合は92.4%であり、前回調査（2022年度）の86.4%を6.0ポイント上回る結果となった。トラブルに巻き込まれた件数が減少した要因としては、啓発活動の強化や学生自身の情報リテラシーの向上が作用したものと考えられる。しかしながら、トラブルに巻き込まれている学生も一定数存在するため、今後も啓発活動に注力する必要がある。

飲酒

問14 あなたは、お酒を飲みたいと思いますか。



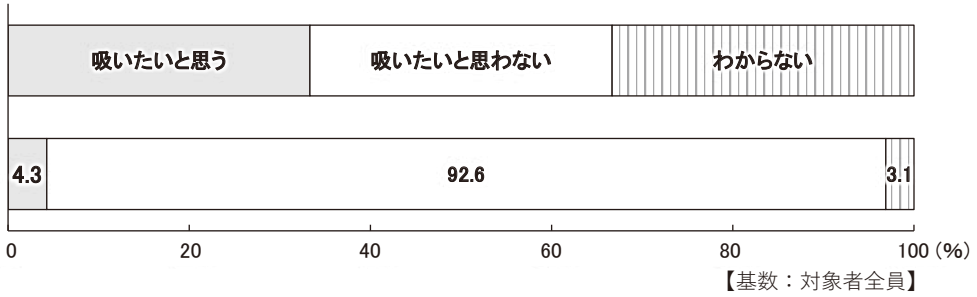
３年次生が最も「飲みたいと思う」割合が高い

今回の調査では、1年次生の41.8%が「飲みたいと思う」と回答しているのに対し、3年次生で54.2%と最も高くなり、4年次生では51.8%とやや減少していることが明らかとなった。また、「飲みたいと思わない」と回答した学生の割合は、1年次生では38.9%、2年次生では34.0%、3年次生では40.0%、4年次生では39.5%と、すべての年次において安定した結果を示している。このことから、今回の調査においては、年次ごとに異なる飲酒意識を有していることが分かった。

喫煙

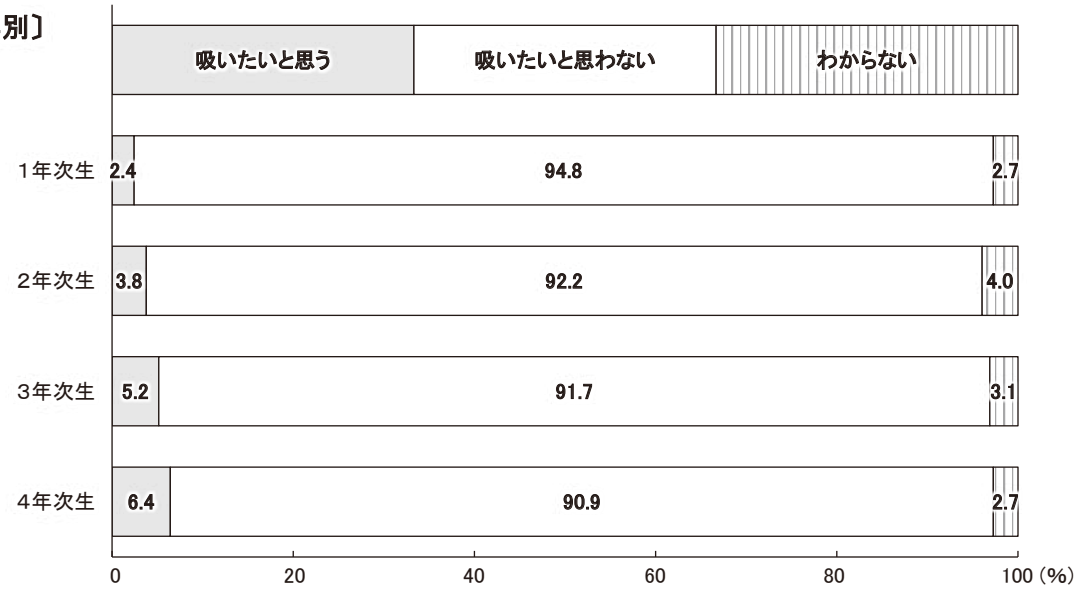
問15 あなたは、煙草（加熱式たばこを含む）を吸いたいと思いますか。

〔全体〕



【基数：対象者全員】

〔学年別〕



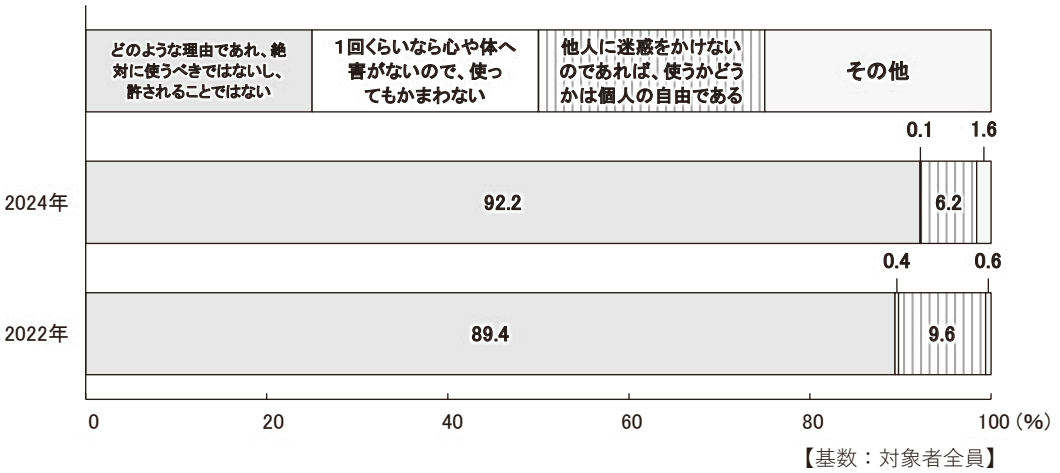
【基数：対象者全員】

「吸いたいと思う」割合が増加傾向

「吸いたいと思う」と回答した学生の割合は、1年次生の2.4%に対し、学年が上がるにつれて増加し、4年次生では6.4%に達している。このことから、年次が上がるにつれ、喫煙に対する抵抗感が薄れていることが明らかとなった。一方、大半の学生が「吸いたいと思わない」と回答していることから、学内の喫煙場所を厳格に管理し、非喫煙者が煙害を受けるリスクを軽減する必要がある。

薬物使用に関する意識

問16 **あなたは、違法薬物、危険ドラッグを使うことについてどのように考えていますか。**



【基数：対象者全員】

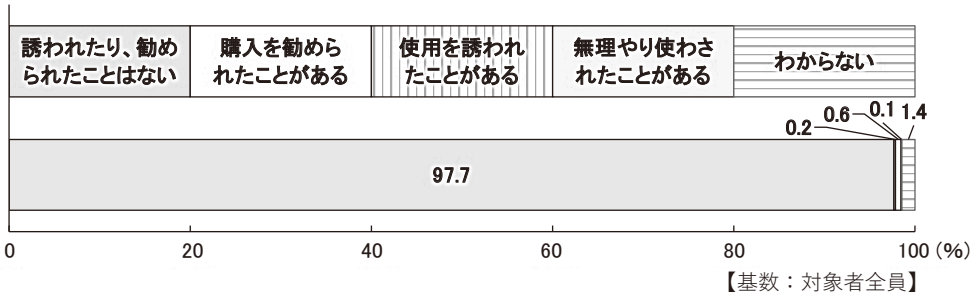
違法薬物や危険ドラッグを絶対に容認しないと回答した学生が増加

違法薬物、危険ドラッグを使うことに対する考えを調査したところ、「どのような理由であれ、絶対に使うべきではないし、許されることではない」と回答した学生の割合が92.2%となり、前回調査（2022年度）から2.8ポイント増加した。また、「他人に迷惑をかけないのであれば、使うかどうかは個人の自由である」と回答した学生の割合は6.2%となり、前回調査（2022年度）から3.4ポイント減少した。これらの結果から、学生らが違法薬物や危険ドラッグの危険性を認識し、その使用を断固として容認しない風潮が一層高まっていることが明らかになった。

薬物使用を勧誘された経験

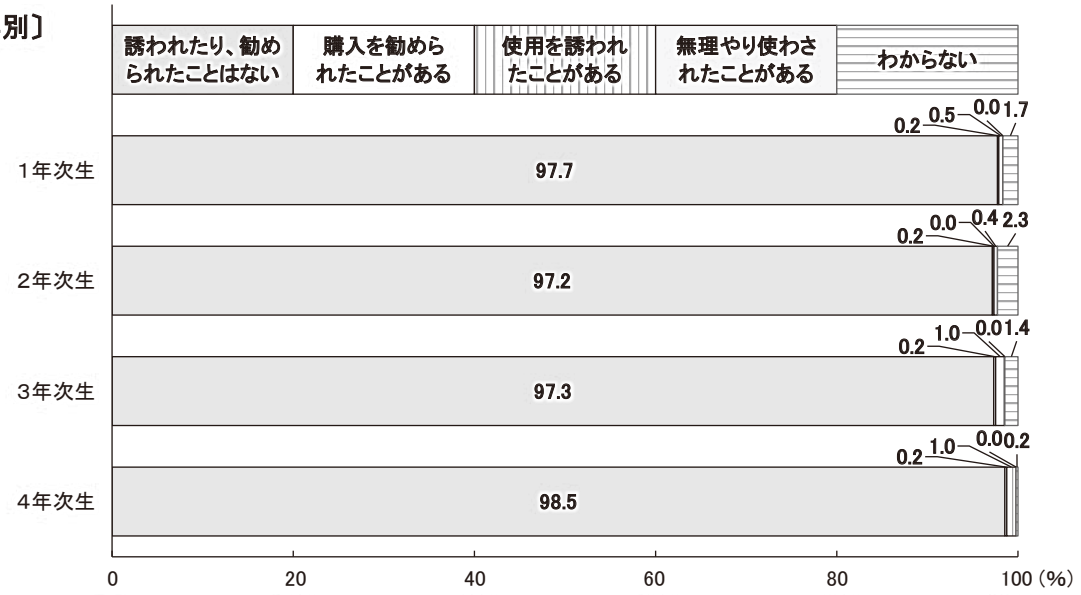
問17 あなたは、違法薬物、危険ドラッグを使用することや購入することを誘われたり、勧められたりしたことが、これまでにありましたか。

〔全体〕



【基数：対象者全員】

〔学年別〕



【基数：対象者全員】

97%以上の学生が「誘われたり、勧められたことはない」と回答

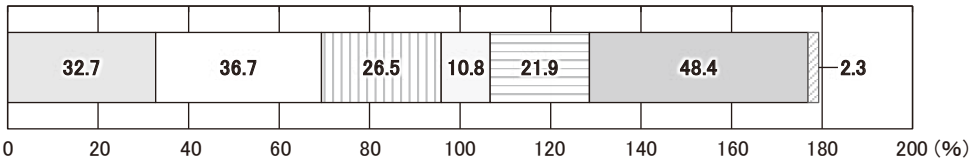
違法薬物、危険ドラッグを使用することや購入することを誘われたり、勧められたりしたことが、これまでにあったかを調査したところ、「誘われたり、勧められたことはない」と回答した学生の割合は97.7%となり、学年別に見てもいずれも97.0%以上を上回り、多くの学生がこれまでに違法薬物、危険ドラッグのリスクに直面したことがないことが明らかとなった。

一方で、「購入を勧められたことがある」が0.2%、「使用を誘われたことがある」が0.6%、「無理やり使わされたことがある」が0.1%という結果になり、違法薬物、危険ドラッグのリスクに直面した経験をもつ学生が僅かながら存在していることが分かった。

薬物に関する啓発

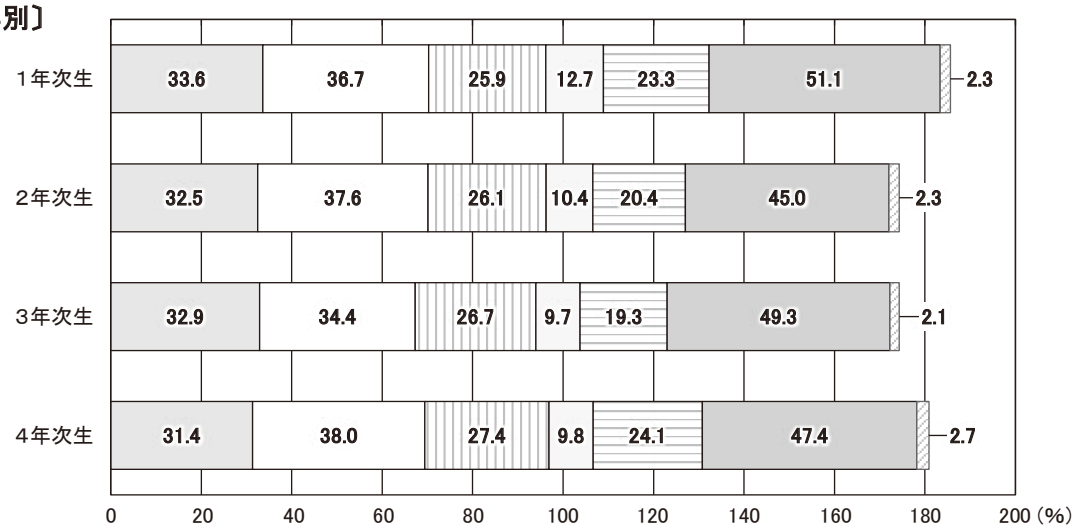
問18 違法薬物、危険ドラッグから身を守るために、効果的だと思う啓発はどれですか。（複数選択可）

〔全体〕

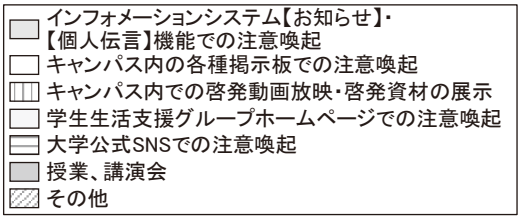


【基数：対象者全員】

〔学年別〕



【基数：対象者全員】



その他（自由記述）

- LMSで啓発動画を見られる項目を作る
- 薬物中毒者体験動画の作成とSNSでの公開
- 違法薬物、危険ドラッグを使った人の見た目の変化や、現状の写真のポスター
- 関大前駅等、交通機関のアナウンスと連携した注意喚起
- 実際に薬物を乱用した人の写真の展示
- 授業内での注意喚起
- 薬物の使用が疑われる学生が主たる構成員となる団体の特定及び通報拡大
- 学内における取り締まりの厳格化
- 薬物を勧めてくる人がいたらその情報を提供して報酬を与えるシステムを作って広める
- 薬物中毒者の起こした問題を報道する
- 違法ドラッグ所持を犬で摘発
- 刑罰の説明
- 厳しい罰則の制定
- ティッシュ配り
- 警察の呼びかけ
- 大人からの啓発では興味を持たない人もいるので、同世代のなかから違法薬物を使うのはダサいというような空気感ができるとよいと思います
- 家族、友人からの注意喚起
- 相談できる大人が近くにいること
- 周囲の人からの直接的な注意
- 家庭教育で日常的に深く関わる人による指導を徹底すること
- 違法薬物や危険ドラッグを服用した人の後遺症の深刻さを伝える
- 身近な人がその被害を受けたのを目の当たりにし、実際にどれだけ危険なのかを身をもって痛感すること
- 本当に伝えるべき人にはこのような広告などでは伝わらないと思う
- 自己管理
- 幾ら講義や注意喚起を行ったとしても一線を越えてしまう人は何を言っても越えると思う
- どれも効果的だと思わない
- 個々人の育った環境に依拠するため、効果的な啓発はない
- 啓発活動は必要ない(啓発活動によって、逆にどのようなものか興味を持ってしまうため)

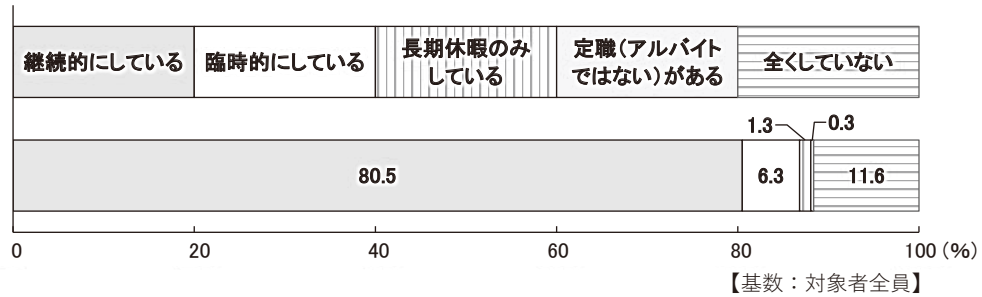
「授業、講演会」が最も効果的な啓発方法

違法薬物、危険ドラッグから身を守るために、効果的だと思う啓発について、調査したところ、「授業、講演会」と回答した学生の割合が48.4%と最も高く、学年別にみると１年次生では51.1%と半数を上回る結果となった。次に、「キャンパス内の各種掲示板での注意喚起」が36.7%、「インフォメーションシステム【お知らせ】・【個人伝言】機能での注意喚起」が32.7%となった。

正課教育である授業を活用した啓発行事や講演会が最も効果的な啓発であり、学生が目にする機会が多いキャンパス内の掲示板や日常的に使用するシステム上に注意喚起を掲出することも一定の効果があることが推測できる結果となった。

アルバイト状況

問19 あなたはアルバイトをしていますか。複数の場合は主なものを１つ選択してください。



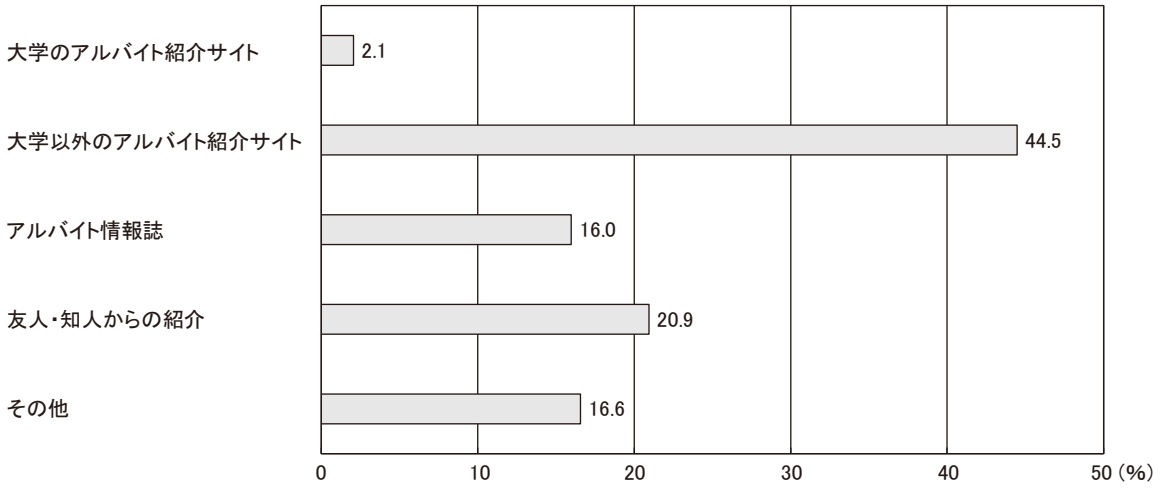
【基数：対象者全員】

9割近くの学生が就労している

アルバイトを「継続的にしている」、「臨時的にしている」、「長期休暇のみしている」、「定職（アルバイトではない）がある」と回答した学生の割合は88.4%であり、約９割に近い学生が就労していることが分かった。また、「継続的にしている」と回答した学生の割合が最も高い80.5%と回答者全体の8割を上回っており、大多数の学生が継続的にアルバイトをしていることが分かった。

アルバイトの探し方

問20 **問19「あなたはアルバイトをしていますか。」で「継続的にしている」、「臨時的にしている」、「長期休暇のみしている」と回答した方にお尋ねします。あなたはどのようにしてアルバイトを探しますか（探しましたか）。複数の場合は主なものを１つ選択してください。**



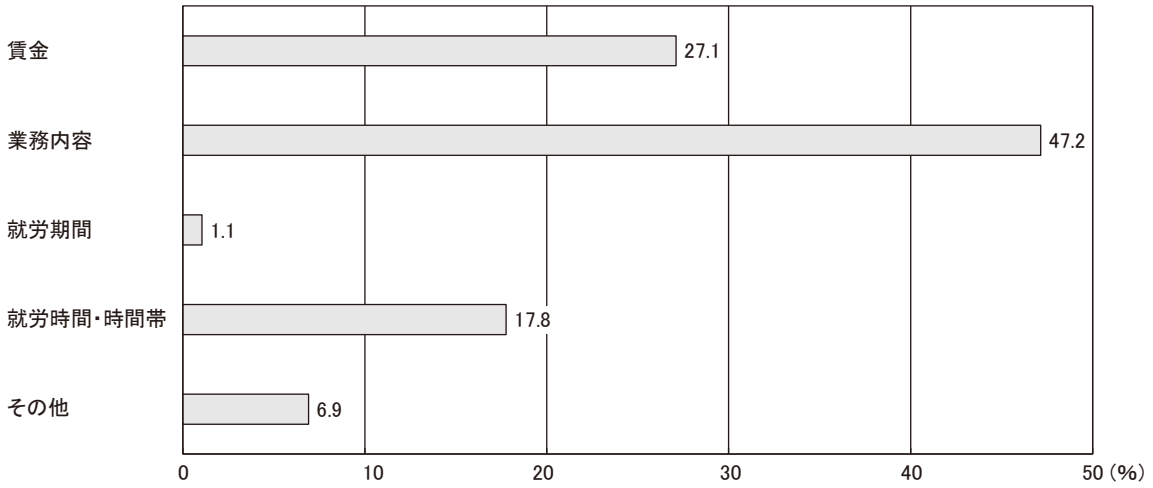
【基数：アルバイトを継続的・臨時的・長期休暇のみしている人】

アルバイトを探す方法は、インターネットの活用が主流

問19「あなたはアルバイトをしていますか。」で「継続的にしている」、「臨時的にしている」、「長期休暇のみしている」と回答した学生に対し、アルバイトを探す方法について調査したところ、「大学内のアルバイト紹介サイト」と回答した学生の割合は2.1%と非常に低く、大学以外の情報源を活用していることが読み取れる。また、「大学のアルバイト紹介サイト」、「大学以外のアルバイト紹介サイト」と回答した学生の割合は46.6%と半数近く、インターネットを活用したアルバイト探しが主流であることが分かった。一方で、「アルバイト情報誌」、「友人・知人からの紹介」と回答した学生もそれぞれ一定の割合を占めており、ネットを利用するだけでなく、紙媒体や人的なネットワークを活用する学生も多いことが分かった。

アルバイトを選ぶ時の重視点

問21 **問19「あなたはアルバイトをしていますか。」で「継続的にしている」、「臨時的にしている」、「長期休暇のみしている」と回答した方にお尋ねします。あなたはアルバイトを選ぶ際、何を最も重視しますか。**



【基数：アルバイトを継続的・臨時的・長期休暇のみしている人】

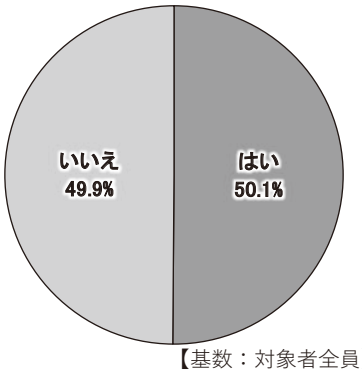
約半数の学生が業務内容を重視すると回答

問19「あなたはアルバイトをしていますか。」で「継続的にしている」、「臨時的にしている」、「長期休暇のみしている」と回答した学生に対し、アルバイトを選ぶ際、何を最も重視するか調査したところ、「業務内容」と回答した学生の割合が47.2%で最も高く、自分の興味や性格、将来のキャリアなどと合ったアルバイトを選ぶことに価値を感じていることが分かる。次いで、「賃金」と回答した学生の割合が27.1%、「就労時間・時間帯」と回答した学生の割合が17.8%と順に高く、業務内容を重視しつつも、賃金や働く時間帯の柔軟性も考慮していることが読み取れる結果となった。

給付奨学金制度の認知度

問22 **あなたは「関西大学」が実施している返還義務のない給付奨学金制度を知っていますか。（例：学の実化入学前予約採用型給付奨学金、新入生給付奨学金、学部給付奨学金 等）**

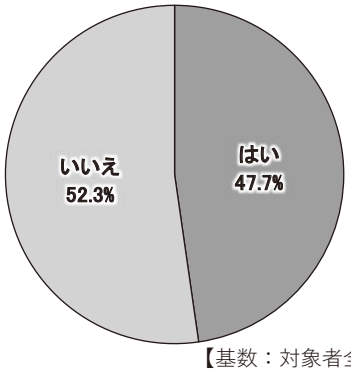
〔全体〕



【基数：対象者全員】

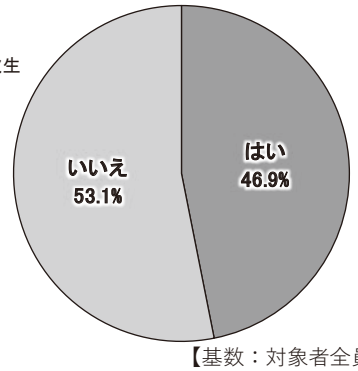
〔学年別〕

1年次生



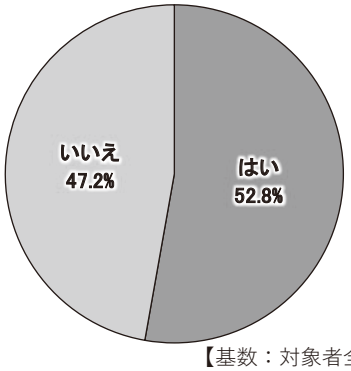
【基数：対象者全員】

2年次生



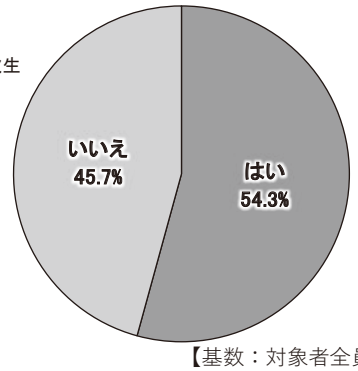
【基数：対象者全員】

3年次生



【基数：対象者全員】

4年次生



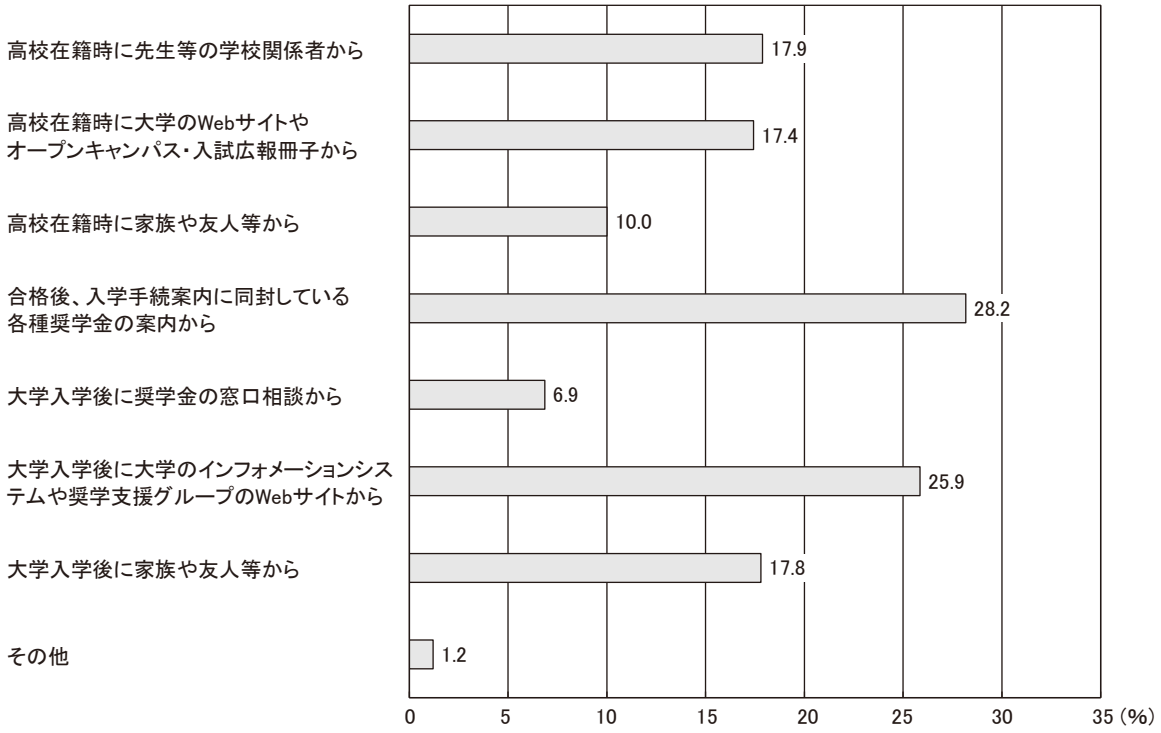
【基数：対象者全員】

５割の学生が関西大学の給付奨学金制度を「知っている」と回答

関西大学の給付奨学金について、「知っている」と回答した学生は50.1%、「知らない」と回答した学生は49.9%であり、おおよそ半数の学生が認知している状況であった。また、「知っている」と回答した学生の割合は3・4年次生で高い傾向が見られた。このことから、制度の認知度をさらに向上させるためには、下位年次生や入学前の進学希望者に重点を置いた周知方法を検討する必要があると思われる。

給付奨学金制度に関する情報について

問23 **問22「あなたは「関西大学」が実施している返還義務のない給付奨学金制度を知っていますか。（例：学の実化入学前予約採用型給付奨学金、新入生給付奨学金、学部給付奨学金 等）」で「はい」と回答した方にお尋ねします。関西大学の給付奨学金に関する情報をどこで入手しましたか。（複数選択可）**



【基数：「関西大学」が実施している返還義務のない給付奨学金制度を知っている人】

その他（自由記述）

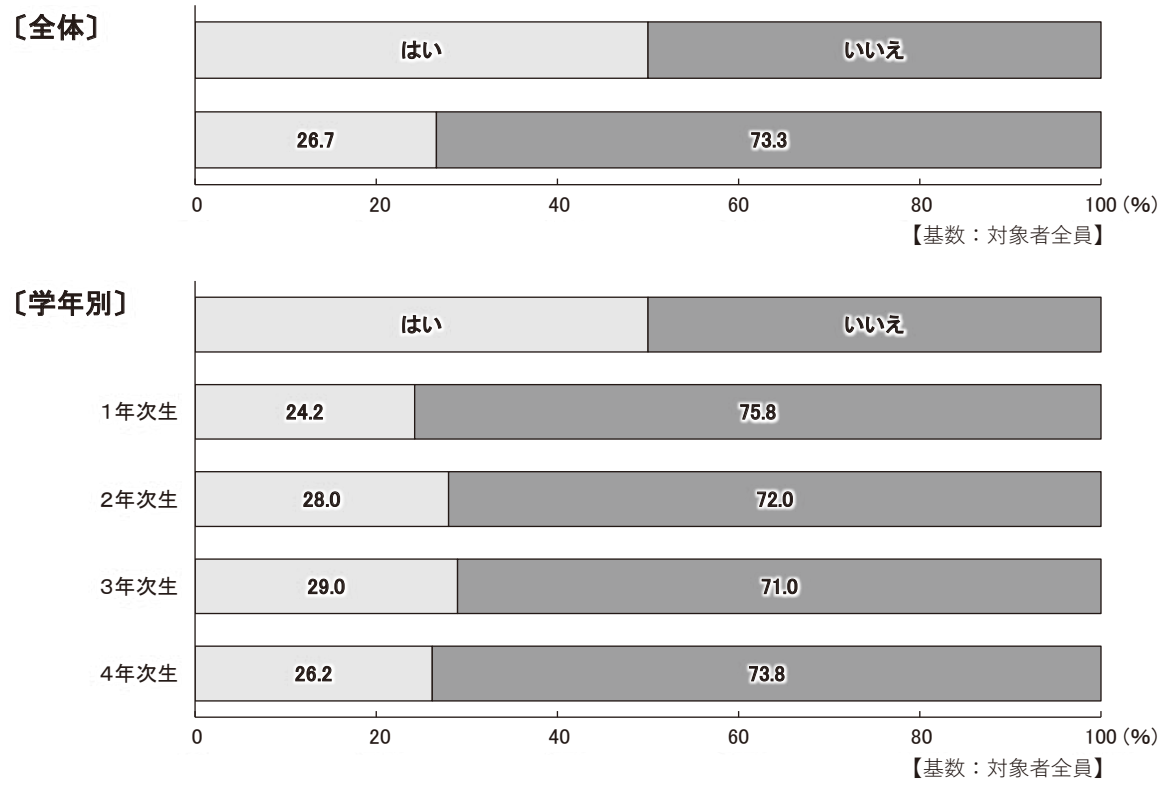
・YouTube
・知のパスポートという授業から
・入試の結果に採用通知が同梱されていた
・奨学金制度の説明会
・事務室前
・先輩から
・授業で関西大学について調べた時にサイトから
・入学者給付奨学金に内定していたため
・大学の先生からの案内

大半の学生が入学前に奨学金情報を得ている

関西大学の奨学金に関する情報源として、「入学手続案内に同封している各種奨学金の案内」から得た学生が28.2%と最も多い割合を占めた。他には、「高校在籍時に大学のWebサイトやオープンキャンパス・入試広報冊子」から得た学生が17.4%、「高校在籍時に先生等の学校関係者」から得た学生が17.9%、「高校在籍時に家族や友人等から」から得た学生が10%であった。これにより、多くの学生が入学前の段階で奨学金の情報を得ていることが確認された。今後も、関連部署と連携し、高校の学校関係者等に対して奨学金制度の正確な情報を提供をするとともに、入学後の情報提供にも注力する必要があると思われる。

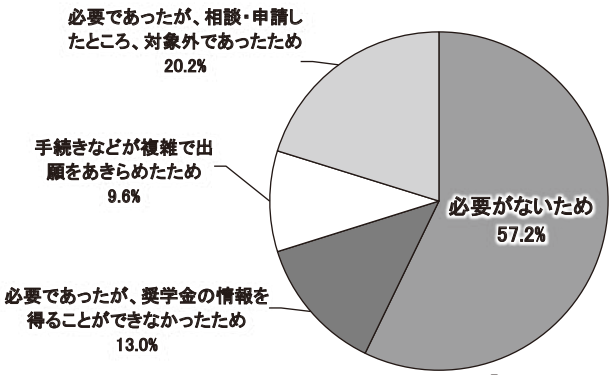
給付奨学金の利用状況

問24 現在、関西大学の給付奨学金を利用していますか。



給付奨学金制度を利用しなかった理由

問25 問24「現在、関西大学の給付奨学金を利用していますか。」で「いいえ」と回答した方にお尋ねします。「いいえ」と回答した理由をお答えください。



【基数：関西大学の給付奨学金を利用していない人】

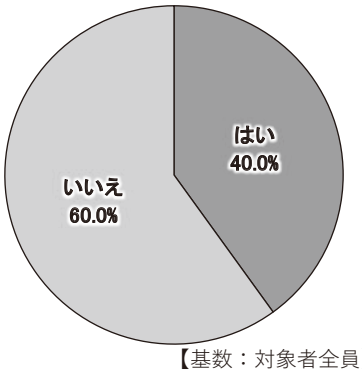
給付奨学金が必要ない学生が約６割

関西大学の給付奨学金を利用していない理由について、「必要がないため」と回答した学生が57.2%、「必要であったが、相談・申請したところ、対象外であったため」が20.2%であった。これらを合わせると、77.4%の学生が必要性や資格確認のうえで利用していないことが伺える。一方で、「必要であったが、奨学金の情報を得ることができなかったため」と回答した学生が13%、「手続きなどが複雑で出願をあきらめたため」が9.6%という結果も示され、周知方法の改善や出願手続きの簡素化が重要であると思われる。

修学支援新制度の認知度

問26 **あなたは「国」が実施している返還義務のない修学支援新制度（授業料減免と給付奨学金がセットの制度）を知っていますか。**

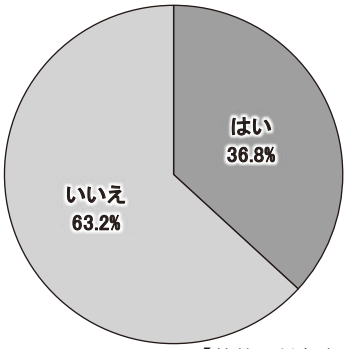
〔全体〕



【基数：対象者全員】

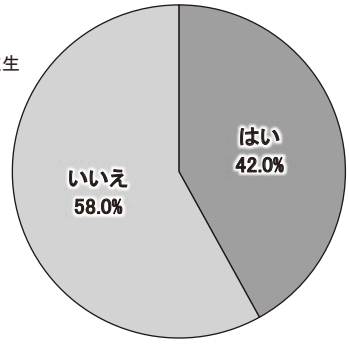
〔学年別〕

1年次生



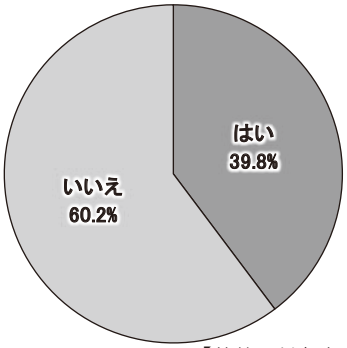
【基数：対象者全員】

2年次生



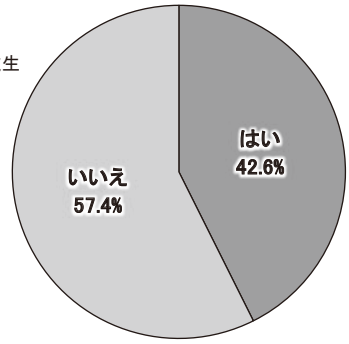
【基数：対象者全員】

3年次生



【基数：対象者全員】

4年次生



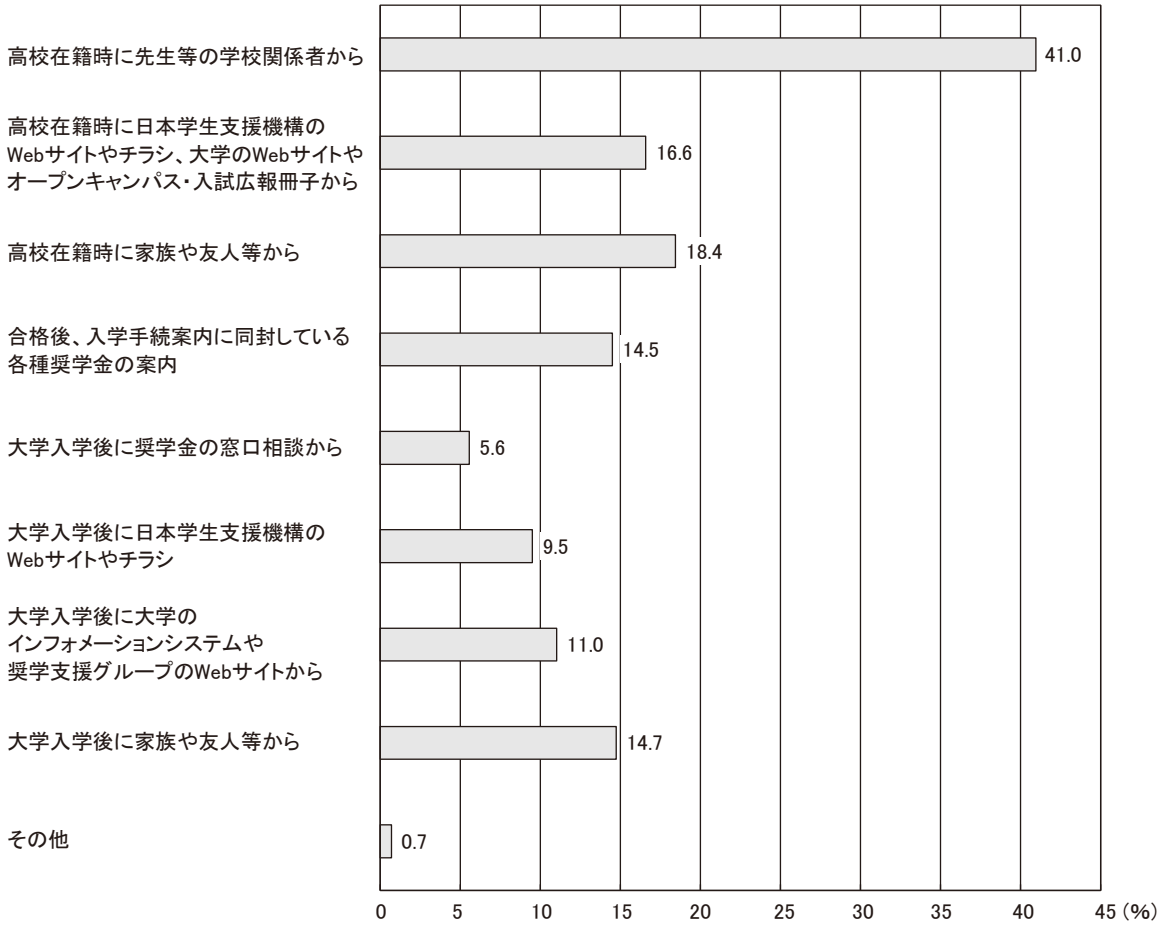
【基数：対象者全員】

４割の学生が国の修学支援新制度を「知っている」と回答

前回調査（2022年度）の調査では、「知っている」と回答した割合が57.6%であったのに対し、今回の調査では40%と、前回調査を下回る結果となった。制度が拡充され、利用者が増加している一方で、認知度が低下した背景を考察するには、今後も調査を重ね、経年的な比較を行うことが重要である。

修学支援新制度に関する情報について

問27 **問26「あなたは「国」が実施している返還義務のない修学支援新制度（授業料減免と給付奨学金がセットの制度）を知っていますか。」で「はい」と回答した方にお尋ねします。修学支援新制度に関する情報をどこで入手しましたか。（複数選択可）**



【基数：「国」が実施している返還義務のない修学支援新制度を知っている人】

その他（自由記述）

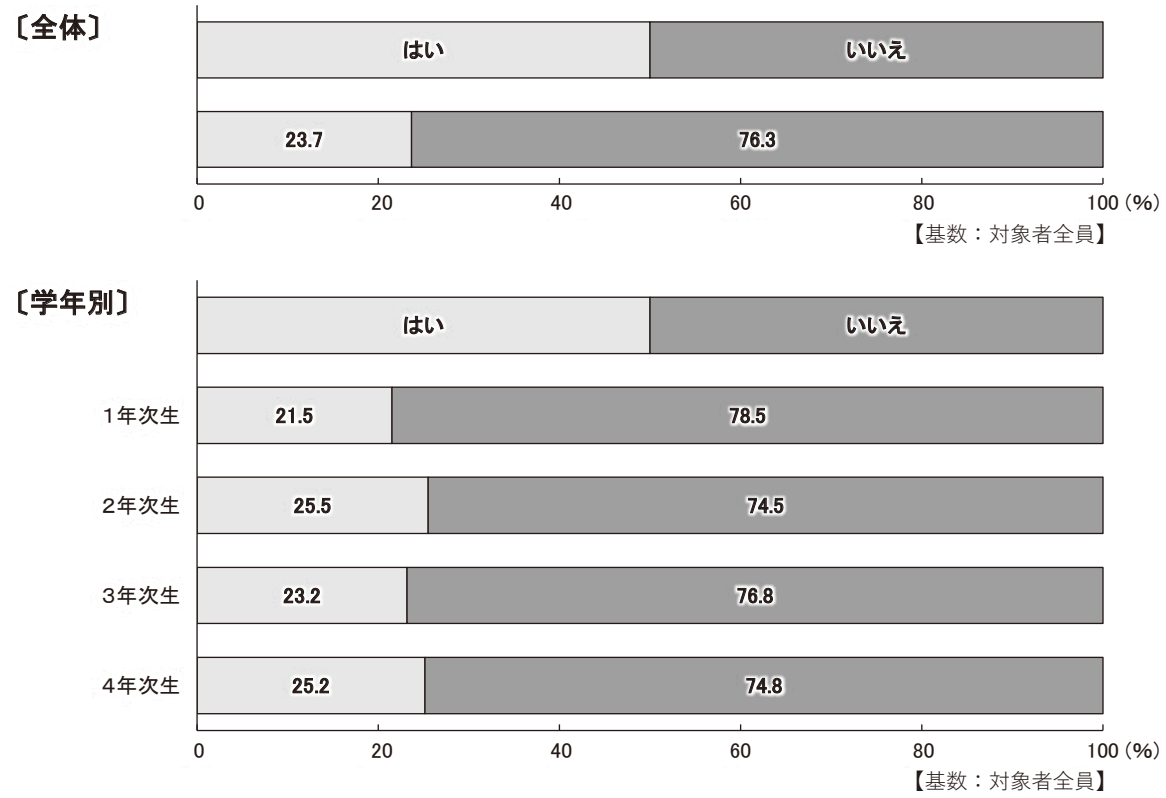
・YouTube
・奨学金制度の説明会
・ニュースでみた
・大学入学後に大学の教員から
・学校からの案内
・関大ポータルの個人伝言の通知

大半の学生が入学前に奨学金情報を得ている

国の修学支援新制度に関する情報源として、「高校在籍時に先生等の学校関係者」から得た学生が41%と最も多かった。「高校在籍時に大学のWebサイトやオープンキャンパス・入試広報冊子」からが16.6%、「高校在籍時に家族や友人等」からが18.4%、「入学手続案内に同封している各種奨学金の案内」が14.5%であり、多くの学生が入学前の段階で奨学金の情報を得ていることが確認された。これは、国の修学支援新制度については高校在学時に予約採用が実施されていることが大きな理由と考える。

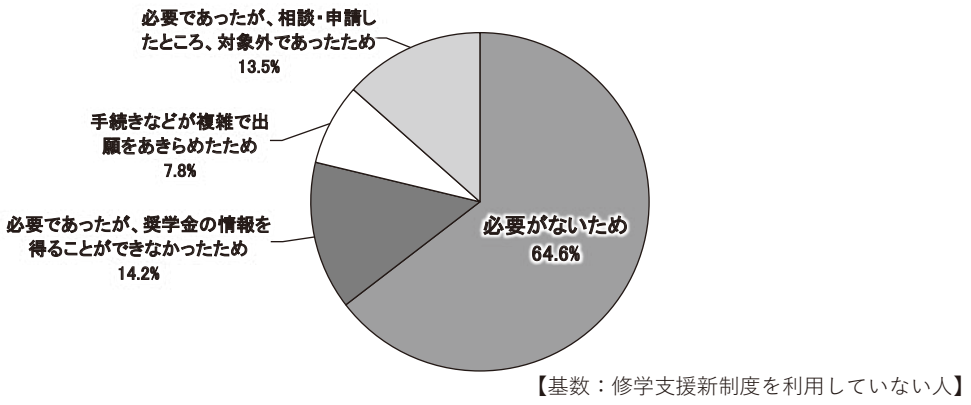
修学支援新制度の利用状況

問28 現在、修学支援新制度を利用していますか。



修学支援新制度を利用しなかった理由

問29 問28「現在、修学支援新制度を利用していますか。」で「いいえ」と回答した方にお尋ねします。「いいえ」と回答した理由をお答えください。



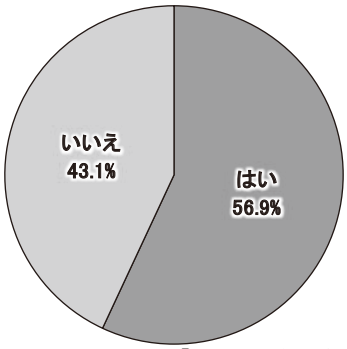
６割以上が「必要がないため」と回答

修学支援新制度を利用していない理由について、「必要がないため」と回答した学生が64.6%と最も多かった。また、「必要であったが、相談・申請したところ、対象外であったため」が13.5%であった。修学支援新制度は利用条件が厳しい制度ではあるものの、年々条件が緩和されつつあることに加え、生計維持者の失業等、家計が急変する特別な事情がある場合には対象となる可能性もあるため、利用を検討している学生がスムーズに奨学金窓口へ相談できるような仕組みを整えることが重要と考えられる。

貸与奨学金制度の認知度

問30 **あなたは「日本学生支援機構（JASSO）」が実施している返還義務のある貸与奨学金制度を知っていますか。（例：第一種奨学金、第二種奨学金）**

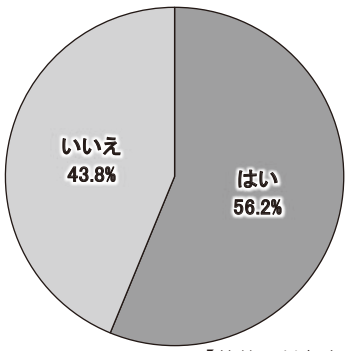
〔全体〕



【基数：対象者全員】

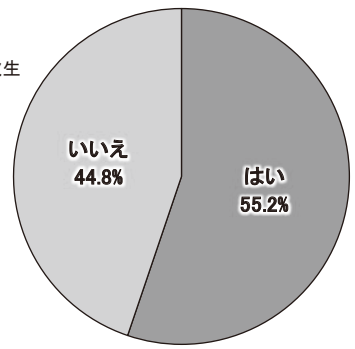
〔学年別〕

1年次生



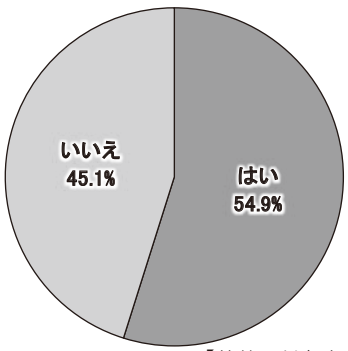
【基数：対象者全員】

2年次生



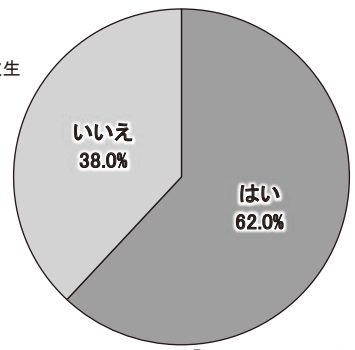
【基数：対象者全員】

3年次生



【基数：対象者全員】

4年次生



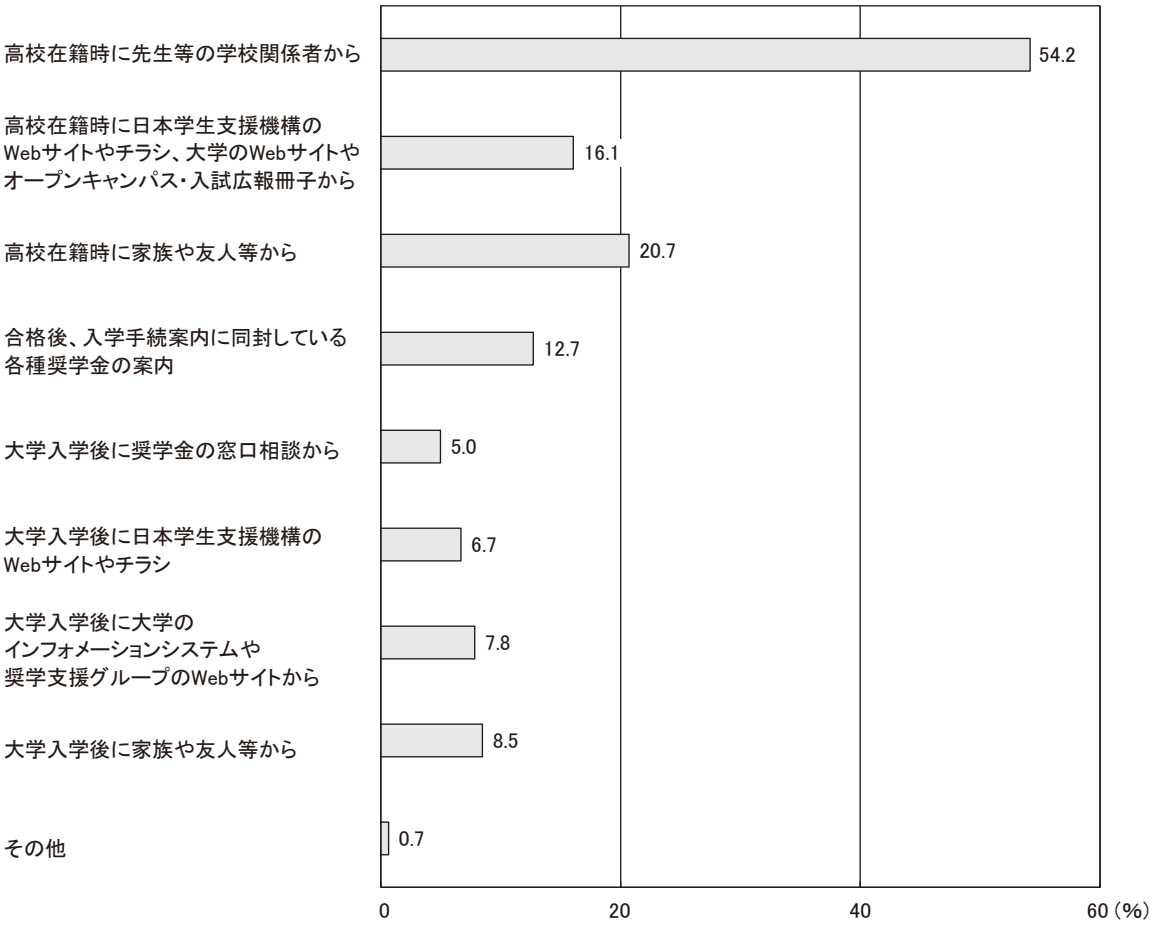
【基数：対象者全員】

各学年とも貸与奨学金の認知度は給付奨学金よりも高い結果となった

貸与奨学金制度について、全体の56.9%の学生が「知っている」と回答しており、問26の修学支援新制度の認知度と比較して高い結果となった。これは、修学支援新制度と比べ対象者の範囲が広く、申請可能な学生が多いため、学生の関心が高いことが要因と思われる。

貸与奨学金制度に関する情報について

問31 **問30「あなたは「日本学生支援機構（JASSO）」が実施している返還義務のある貸与奨学金制度を知っていますか。（例：第一種奨学金、第二種奨学金）」で「はい」と回答した方にお尋ねします。貸与奨学金制度に関する情報をどこで入手しましたか。（複数選択可）**



【基数：「日本学生支援機構（JASSO）」が実施している返還義務のある貸与奨学金制度を知っている人】

その他（自由記述）

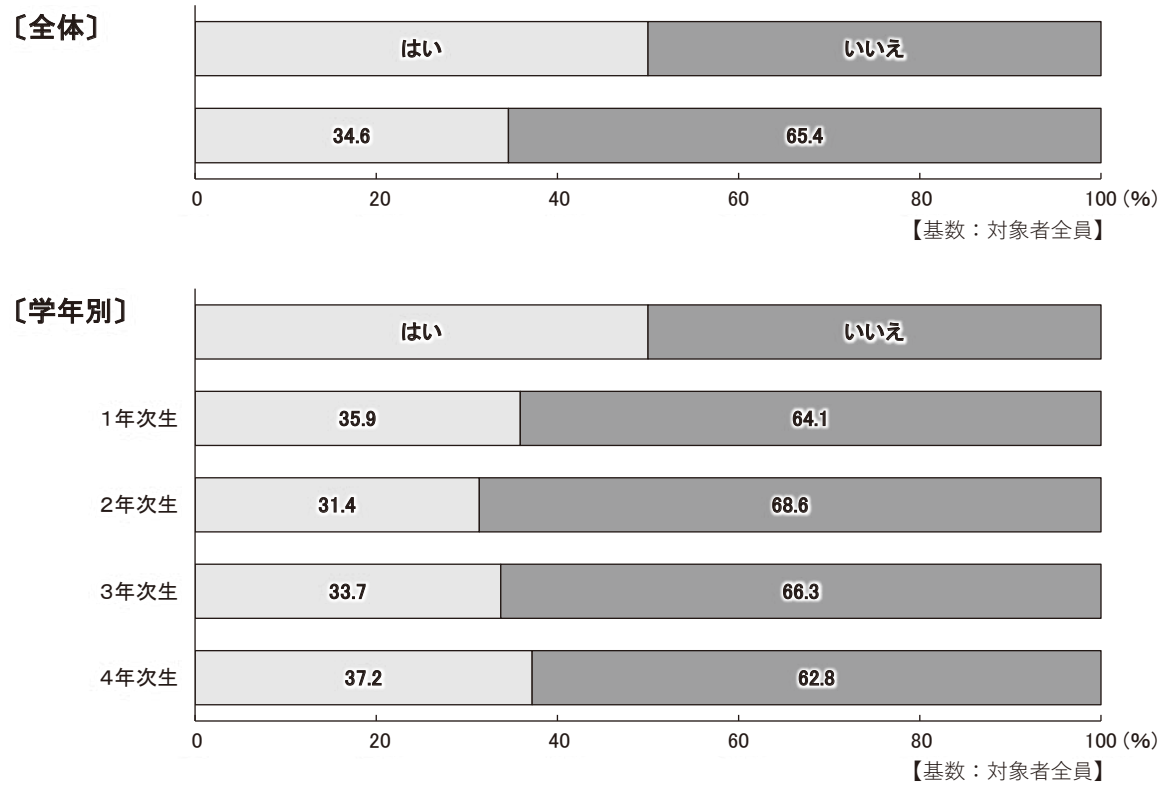
・FPの勉強で知った
・奨学金制度の説明会
・日常生活の中でいつの間にか
・兄弟が使っていた
・ニュースなどで
・街中のチラシ

高校在籍時に奨学金情報を得ている学生が最も多い

貸与奨学金制度に関する情報源は、「高校在籍時に先生等の学校関係者」から得た学生が54.2%と最も高く、「高校在籍時に大学のWebサイトやオープンキャンパス・入試広報冊子」からが16.1%、「高校在籍時に家族や友人等」からが20.7%、「入学手続案内に同封している各種奨学金の案内」からが12.7%であった。これらは、複数回答の結果であるが、高校在籍時の段階で奨学金の情報を得ている学生が多いことが確認された。これは、国の修学支援と同様に高校在学時に予約採用が実施されていることが大きな理由と考えられる。

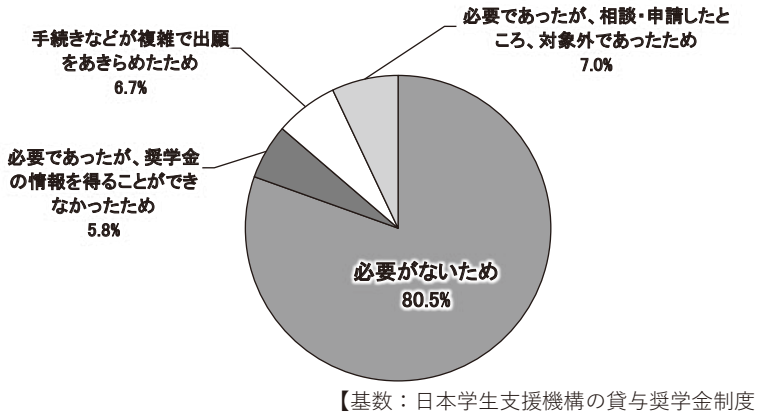
貸与奨学金制度の利用状況

問32 現在、日本学生支援機構の貸与奨学金制度を利用していますか。



貸与奨学金制度を利用しなかった理由

問33 問32「現在、日本学生支援機構の貸与奨学金制度を利用していますか。」で「いいえ」と回答した方にお尋ねします。「いいえ」と回答した理由をお答えください。



【基数：日本学生支援機構の貸与奨学金制度を利用していない人】

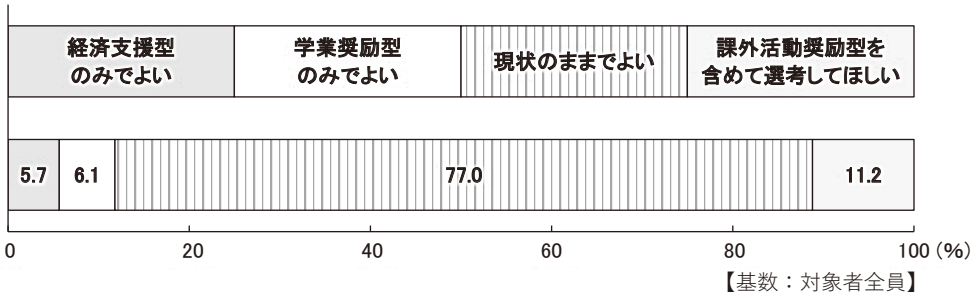
８割以上が「必要がないため」

貸与奨学金を利用していない理由について、「必要がないため」と回答した学生が80.5%と圧倒的に多かった。また、「必要であったが、相談・申請したところ、対象外であったため」が7%であった。一方で、「必要であったが、奨学金の情報を得ることができなかったため」が5.8%、「手続きなどが複雑で出願をあきらめたため」が6.7%であった。この結果から、周知方法の改善や出願手続きの簡素化が重要であると考えられる。

奨学金制度について

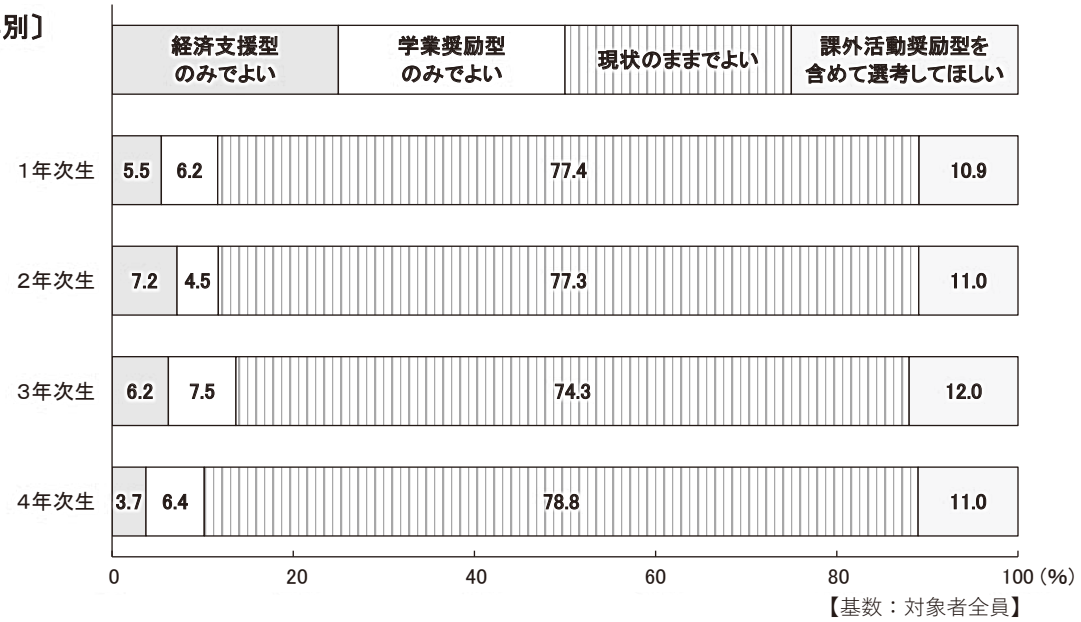
問34 現在、関西大学では経済支援型と学業奨励型を両立させることを目的とした奨学金制度を設けていますが、奨学金制度についてどのように感じていますか。

〔全体〕



【基数：対象者全員】

〔学年別〕



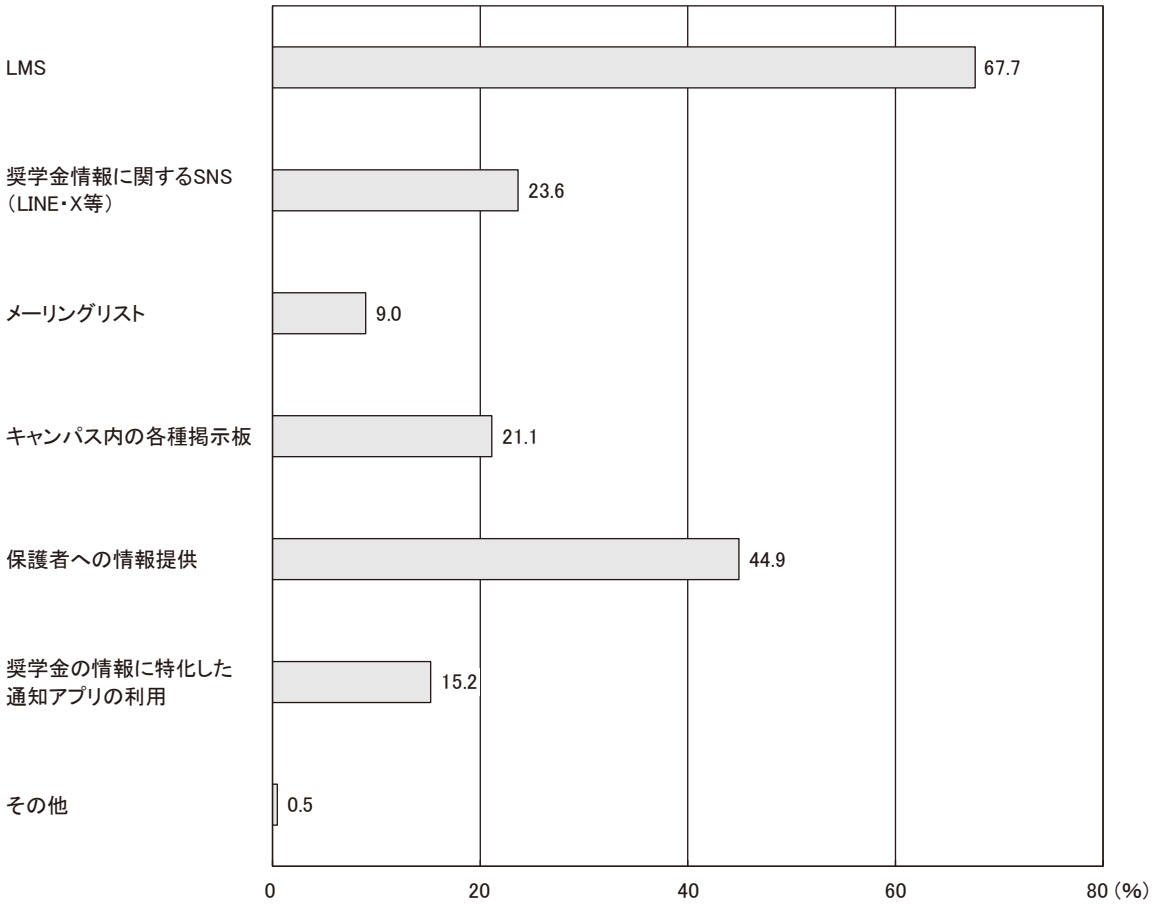
【基数：対象者全員】

奨学金制度について「現状のままでよい」が７割以上

関西大学の奨学金制度について、77%の学生が「現状のままでよい」と回答しており、「経済支援型」と「学業奨励型」を両立する現行制度に対して、多くの学生が現状維持を望んでいることが伺える。一方、「課外活動奨励型を含めて選考してほしい」と回答した学生は11.2%を占めており、学生が学業だけでなく、多方面での成長や社会貢献を目指して活動できるよう支援する制度の拡充も検討する必要がある。

奨学金制度に関する情報について

問35 **インフォメーションシステムのお知らせ、個人伝言や奨学支援グループのWebサイト以外で、あなたが奨学金の情報を入手するために、どのような周知方法が効果的だと考えますか。（複数選択可）**



【基数：対象者全員】

その他（自由記述）
・噂話として、奨学金の存在を伝える
・授業
・現在のままでよい
・Gmail
・下宿先への郵送通知
・オープンキャンパス
・ネットで調べる
・入学時のオリエンテーションでの説明

LMS・保護者への情報提供が効果的

奨学金の周知方法として効果的な手段では、授業等で利用する「LMS」と回答した学生が67.7%と最も多い結果となった。一方、「キャンパス内の各種掲示板」は21.1%であり、デジタル環境が普及している中でも、掲示板が一定の役割を果たし、学生にとって依然として重要な情報源であると考えられる。また、「保護者への情報提供」が44.9%で二番目に多かった。この結果から、奨学金は学費や生活費など家庭の経済状況に直結しているため、保護者が奨学金制度の情報を把握し、申請や選択に関与しているケースが多いと推測される。今後は、保護者を対象とした情報発信をさらに強化することで、奨学金制度の認知度向上が期待される。

関西大学